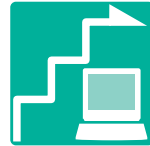


パソコンの使い方が、さらに広がる
パソコン機能ガイド



このパソコンに取り付けることができる

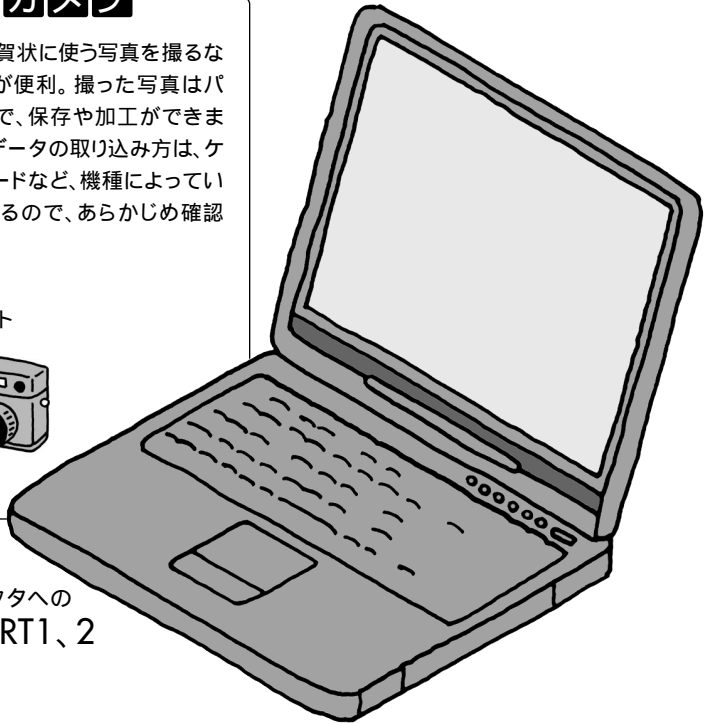
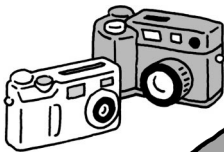
周辺機器

周辺機器の取り付けの際には、このパソコンで使えるものが確認してください。また、取り付け手順については、周辺機器のマニュアルやこのマニュアルをお読みください。

デジタルカメラ

ホームページや年賀状に使う写真を撮るならデジタルカメラが便利。撮った写真はパソコンに取り込んで、保存や加工ができます。パソコンへのデータの取り込み方は、ケーブルやメモ리카ードなど、機種によっていろいろな方法があるので、あらかじめ確認しておきましょう。

- USBコネクタ
- PCカードスロット

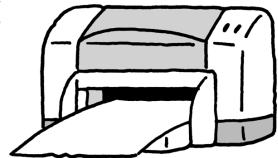


周辺機器の各コネクタへの
取り付け方は、PART1、2
をご覧ください。

プリンタ

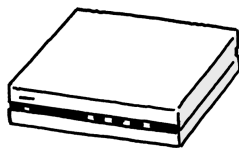
デジカメで撮った写真やインターネットで見つけた情報を印刷したいときにはプリンタ。現在主流のインクジェットプリンタは種類も多く、写真画質や高速な印刷など用途に応じて選べます。このパソコンではUSB対応のプリンタが使えます。

- USBコネクタ



ADSLモデム/ CATVモデム

ブロードバンドで快適なインターネットを楽しみたいときは、ADSLやケーブルテレビなどのインターネットサービスを利用しましょう。ADSLモデムやCATVモデムはLANコネクタに接続します。



ADSL/CATV業者によっては、指定されたモデム以外使用できない場合があります。詳しくはADSL/CATV業者にお問い合わせください。

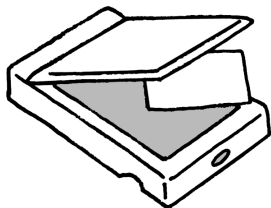
ADSL/CATVモデムにはUSBコネクタに取り付けるものもあります。

→LAN(ローカルエリアネットワーク)、→USBコネクタ

イメージスキャナ

パソコンに絵や写真を取り込むにはイメージスキャナ。取り込んだ絵や写真はパソコンで加工して、ホームページや年賀状などに活用できます。接続が簡単なUSB対応のものがおすすめです。

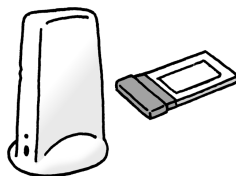
→USBコネクタ



ワイヤレスLAN

家族で複数のパソコンを持っているときなど、ネットワークを作ればデータのやりとりやプリンタの共有ができます。ワイヤレスLANならば、パソコンにケーブルを接続しなくても通信ができるので、パソコンを持って部屋を移動してもネットワークが利用できます。

→2.4GHzワイヤレスLAN



デジタルビデオカメラ

撮影した映像をパソコンに取り込んで編集し、オリジナルのムービーが作れます。できあがったムービーはCD-Rに書き込んで、友達に見せることもできます。

デジタルビデオカメラはIEEE1394コネクタに接続します。

→IEEE1394コネクタ



マウス

マウスを使えば、パソコンの操作をより快適に行うことができます。マウスはUSBコネクタに接続します。

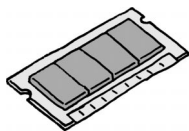
→USBコネクタ



増設メモリ

メモリを増やすことで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、容量の大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

→メモリスロット



携帯電話

携帯電話とパソコンを接続してメモリダイヤル等のデータ管理を行うことができます。携帯電話は添付の接続ケーブルを使ってUSBコネクタに接続します。

データ管理については『快適パソコン生活Book』をご覧ください。

接続に使うケーブルはお使いの携帯電話によって異なります。
PHSをお使いの場合は、パソコンと接続することはできません。

→USBコネクタ



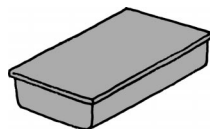
パソコンの機能や周辺機器でできる

パソコン活用例

ここでは、このパソコンの機能や周辺機器でできる、便利な使い方を紹介しています。

外出先で使用する

このパソコンは、コンセントがない場所でもバッテリーのみで使い、外出先でもパソコンを使用することができます。バッテリーで使える時間は限られていますが、省電力機能を活用して消費電力を抑えれば、より長い時間、使用することができます。



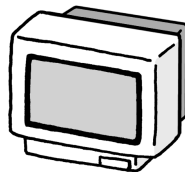
バッテリーパックについて →PART1 の「バッテリー」

消費電力を抑える →PART1 の「省電力機能」

テレビ画面でDVDを見る

パソコンにテレビを接続して、パソコンで再生しているDVD-Videoをテレビの大画面で楽しむことができます。

TVに接続する →PART2 の「外部映像出力端子」



表記について

記号

 チェック	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
 メモ	利用の参考となる補足的な情報や、用語について説明しています。
 参照	関連する情報が書かれている所を示しています。

モデル

モデルの呼びかた

LaVie N	LN500を指します。
2.4GHzワイヤレスLANモデル	2.4GHzワイヤレスLANインターフェイスを内蔵しているモデルです。

LaVie Gシリーズについて

LaVie Gシリーズの各モデルについては、添付の『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

記載内容

- ・本文中に記載されているCD/DVDドライブは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブを指します。
- ・本文中に記載されているBIOSセットアップユーティリティは、画面上では「Phoenix BIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。
- ・イラストや画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本文中に記載の画面は、実際の画面と多少異なることがあります。

ソフトウェアなどの正式名称

Windows、 Windows XP	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 1
Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 6.0
Outlook	Microsoft® Outlook®
Outlook Plus!	Microsoft® Outlook® Plus! Version 2.0
RecordNow DX	VERITAS RecordNow DX
VideoStudio	Ulead® VideoStudio® 6 SE Basic
PCGATE Personal	PCGATE Personal Ver2.0
WinDVD 4	InterVideo® WinDVD® 4 for NEC
BeatJam	BeatJam for NEC

このマニュアルに出てくる基本的な操作

キーボードでの操作

キーボードでの操作は、【 】で囲んで記載しています。

記載例	意味
【F2】を押す	キーボードの[F2]を押すことを表しています。
【Ctrl】+【Alt】+【Del】	Ctrl と Alt を押しながら同時に Del を押すことを表しています。

「スタート」ボタンからの操作

Windowsの「スタート」ボタンから行う操作は、「 」で囲んで記載しています。

記載例	意味
「スタート」すべてのプログラム」「アクセサリ」「システムツール」「システムの復元」をクリックする	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを表しています。

「デバイス マネージャ」の開き方

次のようにするとデバイス マネージャを開くことができます。

- 1 「スタート」「コントロールパネル」をクリックする
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックする
「パフォーマンスとメンテナンス」が表示されます。
- 3 「システム」をクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。
- 4 「ハードウェア」タブをクリックする
- 5 「デバイス マネージャ」をクリックする
「デバイス マネージャ」が表示されます。



当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

■ 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づき技術基準認証済みのいずれかの通信機器が搭載されています。認証番号は次のとおりです。

通信機器	認証番号
モデム	A01-0299JP
ワイヤレスLAN(2.4GHz)	D01-1128JP

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国モードに設定してご使用になりますと電気通信事業法(技術基準)に違反する行為となります。なお、ご購入時の使用国モード(初期値)が「日本モード」となっておりますので、設定を変更しないでそのままご使用ください。

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

■ 瞬時電圧低下について

[バッテリバックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリバックを取り付けている場合]

本装置にバッテリバック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■ レーザ安全基準について

このパソコンには、レーザに関する安全基準(JIS-C-6802、IEC825)クラス1適合のCD/DVDドライブが内蔵されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、またはNEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Windows は本機でのみご使用ください。また、本機に添付のDVD-ROM、およびCD-ROMは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、Windows、Outlook、OfficeロゴおよびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Ulead、VideoStudioは、Ulead Systems, Inc.の商標または登録商標です。

インテル、Intel、Celeronはアメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPIは、Microcom, Inc.の登録商標です。

VERITAS RecordNowは、米国VERITAS Software Corp.の米国における登録商標です。

InterVideo、InterVideoロゴ、WinDVDはInterVideo, Inc.の登録商標です。

「BeatJam」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

PCGATEは、日本電気株式会社の登録商標です。

携帯マスター、ケータイ・マスターは、株式会社ジャングルの商標または登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation, NEC CustomTechnica,Ltd. 2003

日本電気株式会社、NECカスタムテクニカ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■ 輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■ Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC*¹ will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC*¹ does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

* 1 : NEC Corporation, NEC CustomTechnica, Ltd.

目次

PART

1

このパソコンの機能	1
本体各部の名称	2
LaVie N	2
NXパッド	4
名称と役割	4
スクロールボタンを使う	4
キーボード	6
キーの名称	6
キーの使い方	7
ボタン / スイッチ	9
ワンタッチスタートボタン	9
CD/DVDプレーヤボタン	10
CD/DVDドライブ	11
使用できるディスク	11
CD/DVDドライブを使用するときの注意	11
ディスクのセットのしかたと取り出し方	12
音楽CDやDVD-Videoディスクを再生する	14
CD-RやCD-RWにデータを書き込む	15
フロッピーディスクドライブ	16
使用できるディスク	16
フロッピーディスクドライブの接続のしかたと取り外し方	16
フロッピーディスクのセットのしかたと取り出し方	17
フロッピーディスクドライブを使用するときの注意	18
液晶ディスプレイ	19
画面の明るさを調節する	19
便利な表示機能	19
バッテリー	21
バッテリーでパソコンを使う	21
バッテリーを充電する	23
バッテリーリフレッシュ	24
バッテリーパックを交換する	26
バッテリーパックのリサイクルについて	28
省電力機能	29
省電力機能について	29
省電力機能を利用するときの注意	30

省電力状態にする	31
省電力状態から復帰する	32
省電力機能の設定をする	33
LAN(ローカルエリアネットワーク).....	36
LANコネクタを使ってできること	36
LANケーブルを接続する	36
ネットワークの設定	38
LAN使用上の注意	39
2.4GHzワイヤレスLAN	40
2.4GHzワイヤレスLAN機能の紹介	40
2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン/オフ	42
2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン/オフのしかた	43
2.4GHzワイヤレスLAN機能の設定を行う	44
モデム	45
電話回線に接続する	45
モデムを使う	46
モデムを使用するときの注意	47
サウンド機能	48
音量を調節する	48
音楽CDからのデジタル出力設定	48
サウンドの設定	49

パソコンにつなぐ..... 51

周辺機器を使用するときのポイント	52
周辺機器を選ぶときのポイント	52
周辺機器をはじめて接続するときのポイント	53
周辺機器の取り付け/取り外しのポイント	55
USBコネクタ	56
USBコネクタについて	56
USB対応機器の取り付け方と取り外し方	57
携帯電話リンクケーブル	58
IEEE1394コネクタ	59
IEEE1394コネクタについて	59
IEEE1394対応機器の取り付け方と取り外し方	59
PCカードスロット	61

PCカードのセットのしかたと取り出し方	61
PCカードを使用するときの注意	62
サウンド入出力端子	63
ヘッドフォン / オーディオ /	
光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子	63
外部マイクロフォン端子	64
外部映像出力端子	65
外部CRT用コネクタ	65
表示するディスプレイを切り替える	66
複数のディスプレイに同時表示する	67
メモリスロット	68
このパソコンで使える増設RAMボード	68
増設RAMボードを取り扱うときの注意	68
増設RAMボードの取り付け方と取り外し方	68
付 録	73
パソコンやデータを守る	74
パスワード	74
盗難防止用ロック	75
ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止	76
BIOSセットアップユーティリティ	77
BIOSセットアップユーティリティの使い方	77
購入時の値に戻す	78
本体機能一覧	79
LN500	79
通信機能一覧	83
内蔵FAXモデム	83
内蔵LAN	85
2.4GHzワイヤレスLAN	86
索 引	87

P A R T

1

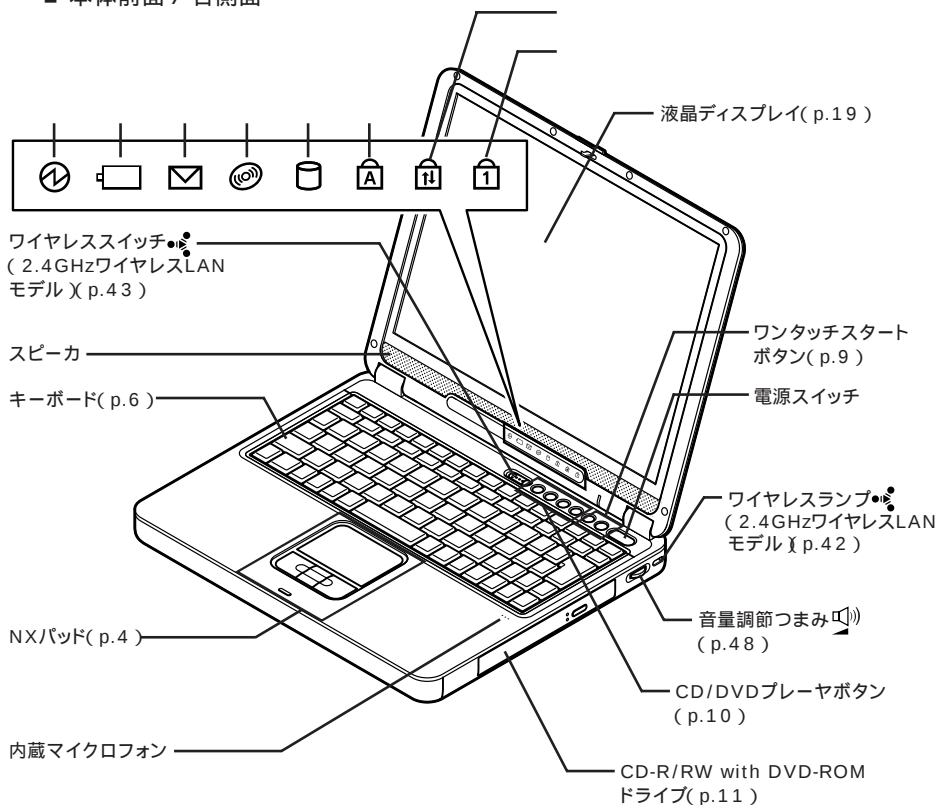
このパソコンの機能

本体各部の名称

お使いのモデルによって、各部の位置や形状が多少異なる場合があります。

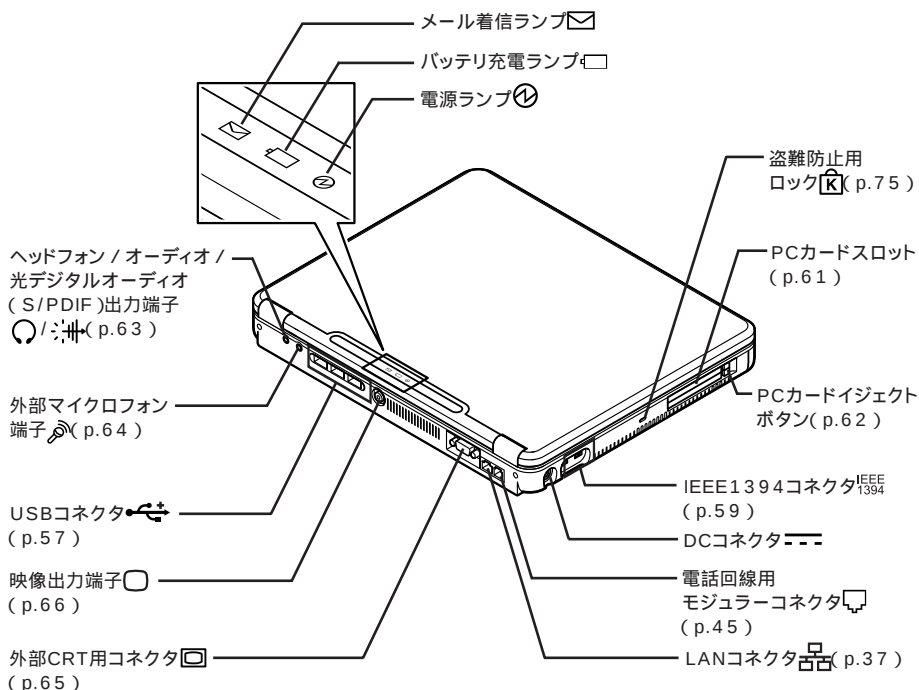
LaVie N

■ 本体前面 / 右側面

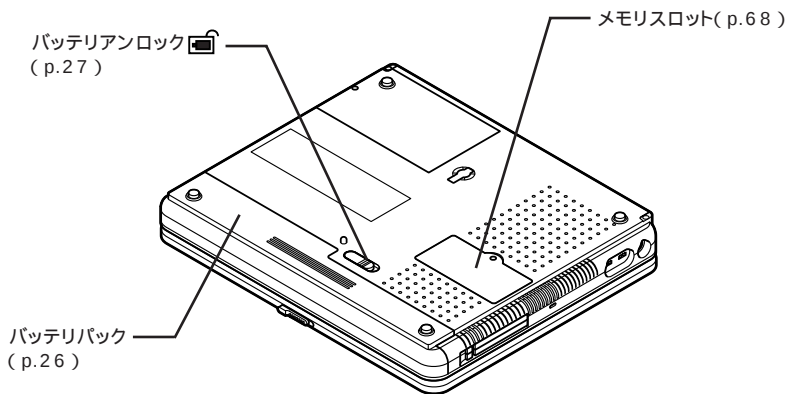


電源ランプ	アクセスランプ
バッテリー充電ランプ	キャップスロックキーランプ
メール着信ランプ	スクロールロックキーランプ
CD/DVDアクセスランプ	ニューメリックロックキーランプ

■ 本体背面 / 左側面



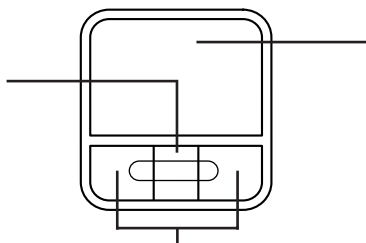
■ 本体底面



NXパッド

省スペースで使用している場合には、NXパッドを使うと便利です。

名称と役割



番号	名称	機能
	パッド	ここで指をすべらせて、ポインタの移動などを行います。
	クリックボタン	左右2つのボタンがあります。これらのボタンで操作の確定などを行います。
	スクロールボタン	このボタンを押すことで、画面をスクロールさせることができます。



参照

- ・NXパッドの使い方について → 「ばそガイド」 「こんなときの操作集」 「NXパッド」 「NXパッドの使いかた」
- ・NXパッドをより使いやすく設定する → 「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「マウス、パッドの設定」 「NXパッドの設定」

スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、ウィンドウの表示内容を上下方向にスクロールしたり、拡大縮小します。

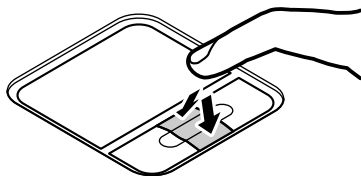


チェック

- ・スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションでは使えません。
- ・ズーム機能は表示内容を拡大縮小する機能があるアプリケーションで使えます。
- ・アプリケーションによっては、ポインタの位置によって動作が異なることがあります。

画面を上下方向にスクロールさせる

- 1 上下スクロールバーがあるウィンドウをクリックする
- 2 スクロールボタンのパッド側、または手前側を押す
パッド側を押すと画面が上に、手前側を押すと画面が下にスクロールします。
スクロールボタンを押したままにすると、画面を連続してスクロールできます。

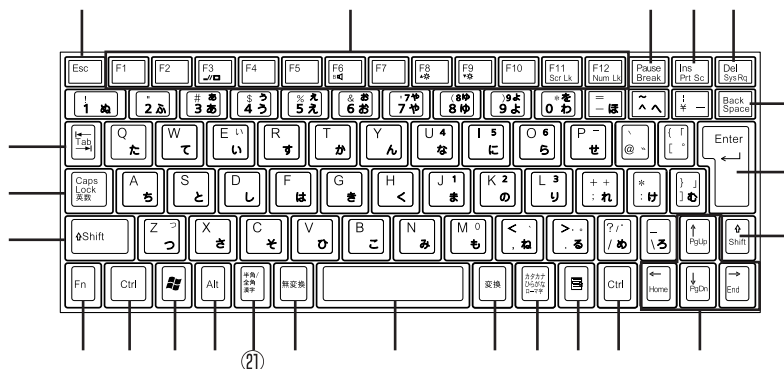


ズーム機能を使う

- 1 表示内容を拡大または縮小したいウィンドウにポインタを動かす
- 2 キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンのパッド側、または手前側を押す
パッド側を押すと画面の表示が拡大され、手前側を押すと縮小されます。

キーボード

キーの名称



【Esc】: エスケープキー

【F1】~【F12】: ファンクションキー

【Ins】: インサートキー

【Del】: デリートキー

【Pause】: ポーズキー

【Back Space】: バックスペースキー

【Enter】: エンターキー(リターンキー)

【Shift】: シフトキー

【↑】【↓】【←】【→】: カーソル移動キー

【Ctrl】: コントロールキー

【⌘】: アプリケーションキー

【Alt】: オルトキー

【カタカナ ひらがな】: かなキー

【変換】: 変換キー

スペースキー

【無変換】: 無変換キー

【⌂】: Windowsキー

【Fn】: エフエヌキー

【Caps Lock】: キャップスロックキー

【Tab】: タブキー

②1 【半角 / 全角】: 半角 / 全角キー

キーの使い方

特殊なキーを使う

キー操作	説 明
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプ()が点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。もう一度押すとランプは消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【半角 / 全角】	押すごとに、日本語入力システムのオン / オフが切り替わります。
【Alt】+ 【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字を入力できるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(→p.8)。
【  】	右クリックするのと同じ機能があります。
【  】	「スタート」ボタンをクリックするのと同じ機能があります。
【  】+【R】	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。
【  】+【M】	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化します。
【Shift】+【  】+【M】	【  】+【M】でアイコン化したウィンドウを元に戻します。
【  】+【F1】	Windowsのヘルプを表示します。
【  】+【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示します。
【Ctrl】+【  】+【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示します。
【  】+【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替えます。

ホットキー機能を使う

【Fn】と他のキーを組み合わせて、パソコンの設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

キー操作	機 能	説 明
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え( / )	外部ディスプレイが接続されているとき、表示するディスプレイを切り替えます(p.66)。
【Fn】+【F5】	画面の伸縮 (ディスプレイ ストレッチ機能)	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する / しないを切り替えます(p.19)。
【Fn】+【F6】	ピープ音のオン / オフ ()	ピープ音のオン / オフを設定します。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる ()	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる ()	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
【Fn】+【F11】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】+【F12】	ニューメリックロック	一度押すとニューメリックロックキーランプ()が点灯し、キー上段に黄色で表示されている数字や記号が入力できるようになります。もう一度押すとランプは消灯し、通常の文字が入力できるようになります。
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+ 	右Windows	右  の役割
【Fn】+ 左【Alt】	右Alt	右【Alt】の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【↑】	Page Up	【PgUp】の役割
【Fn】+【↓】	Page Down	【PgDn】の役割
【Fn】+【←】	Home	【Home】の役割
【Fn】+【→】	End	【End】の役割

メモ

【Fn】+【F3】、【Fn】+【F5】、【Fn】+【F6】、【Fn】+【F11】、【Fn】+【F12】の設定については、パソコンを起動するたびに設定をしなおす必要があります。

参照

キーボードをより使いやすく設定する →  『パソコンガイド』「パソコンの設定」 「キーボードの設定」 「キーボードの設定」

ボタン / スイッチ

このパソコンには、【インターネット】ボタンと【メール】ボタンの2つのワンタッチスタートボタンがあります。ワンタッチスタートボタンを押すと、あらかじめ割り当てられたアプリケーションが起動します。すばやく簡単にアプリケーションを起動できるので便利です。

ワンタッチスタートボタン

次の各ボタンをまとめて「ワンタッチスタートボタン」と呼びます。

ワンタッチスタートボタンを押すと、ボタンに割り当てられているアプリケーションが起動します。

各ボタンの使い方

表示	ボタンの名称	説 明
	【インターネット】ボタン	インターネットに接続するためのボタンです。購入時の状態では「インターネット無料体験」またはインターネットに接続するためのウィザード画面が起動します。
	【メール】ボタン	メールのアプリケーションを起動するためのボタンです。購入時の状態では「Outlook」や「Outlook Express」または、インターネットに接続するためのウィザード画面が起動します。

ワンタッチスタートボタンの設定をする

【インターネット】ボタンや【メール】ボタンを押したときに起動するアプリケーションや機能の有効 / 無効を「ワンタッチスタートボタンの設定」で設定できます。



参照

「ワンタッチスタートボタンの設定」について →  「ばさガイド」「パソコンの設定」「キーボードの設定」「ワンタッチスタートボタンの設定」または「スタート」「すべてのプログラム」「ワンタッチスタートボタンの設定」「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」

ワンタッチスタートボタンを使用するときの注意

- ・ セーフモードなど、Windowsのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンは使えません。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態からワンタッチスタートボタンを押して復帰したときに、設定したアプリケーションが起動しない場合があります。
このような場合は、以下のいずれかの設定を行ってください。
 - 「スタート」「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックし、「詳細設定」タブの「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」の ☒ をクリックして ☐ にする
 - 「スタート」「コントロールパネル」「ユーザーアカウント」「ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する」の「ユーザーの簡易切り替えを使用する」の ☒ をクリックして ☐ にする
- ・ パソコンの電源を切った状態からアプリケーションを起動させる場合、ユーザーアカウントを複数設定していると、ログオン画面でユーザーを選択する必要があります。また、パスワードを設定している場合は、ログオンユーザーのパスワードを入力する必要があります。

CD/DVDプレーヤボタン

CD/DVDプレーヤボタンは、音楽CDやDVD-Videoディスクの操作に使用します。CD/DVDプレーヤボタンには次の機能があります。

ボタン	機能
⏮	前のトラックへ戻る 押し続けると巻き戻し
⏭	次のトラックへ進む 押し続けると早送り
■	停止
▶	再生 / 一時停止



チェック

CD / DVD プレーヤボタンは、このパソコンにインストールされている「BeatJam」または「WinDVD 4」のみで使用可能です。

CD/DVDドライブ

使用できるディスク

このパソコンのCD-R/RW with DVD-ROMドライブで使えるディスクは次の通りです。

- 再生可能なディスク
音楽CD、ビデオCD、フォトCD、DVD-Videoディスク
- 読み込み可能なディスク
CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM
- 書き込み可能なディスク
CD-R、CD-RW
- 書き換え可能なディスク
CD-RW

CD/DVDドライブを使用するときの注意

- ・ CD/DVDドライブ内のレンズには触れないでください。
- ・ ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因となります。
- ・ コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や音楽CDの作成ができないことがあります。
- ・ このパソコンで音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面にCompact Discの規格準拠を示す[CD ロゴ]()マークの入ったディスクを使用してください。
- ・ CD(Compact Disc)規格外ディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。

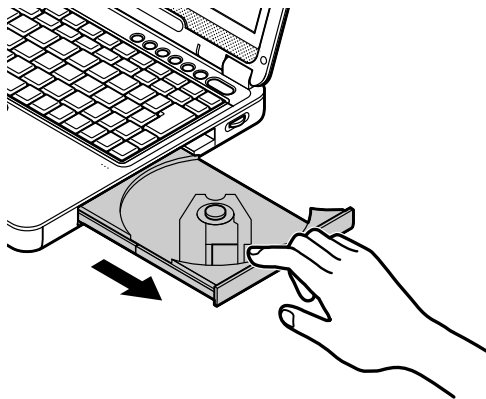
ディスクのセットのしかたと取り出し方

ディスクをセットする

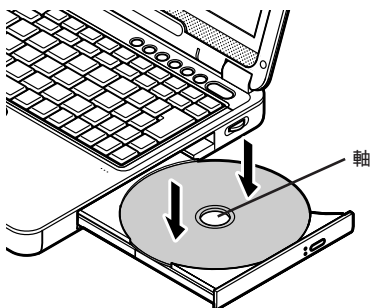
- 1 CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。



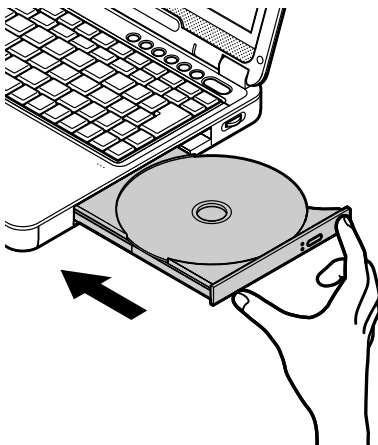
- 2 ディスクトレイを静かに引き出す



- 3** ディスクのデータ面(文字などが印刷されていない面)を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、軸にしっかりはめ込む



- 4** イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す



ディスクを取り出す

- 1** CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。



チェック

ディスクへのアクセス中(アクセスランプ点灯時)は、ディスクを取り出さないでください。

- 2 ディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す
- 3 イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

音楽CDやDVD-Videoディスクを再生する

音楽CDを再生する

このパソコンにインストールされている「BeatJam」で音楽CDを再生できます。音楽CDをCD/DVDドライブにセットするとWindowsの動作を選択する画面が表示されます。「オーディオ CD の再生 BeatJam Selector使用」を選択してください。「BeatJam」が起動します。



参照

「BeatJam」の使い方について→「ばそガイド」 「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」 または「スタート」 「すべてのプログラム」 「JUSTSYSTEM アプリケーション」 「BeatJam」 「BeatJamのマニュアル」

音楽CDからのデジタル出力設定

このパソコンでは音楽CDからの出力をデジタルで行うことができます。



参照

音楽CD からのデジタル出力設定→「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「サウンドの設定」 「サウンドの設定」

DVD-Videoディスクを再生する

このパソコンにインストールされている「WinDVD 4」でDVD-Videoディスクを再生することができます。

また、パソコンにテレビを接続すれば、DVD-Videoディスクの映像をテレビに映すことができます。



参照

- ・「WinDVD 4」の使い方について→「ばそガイド」 「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」 または「WinDVD 4」のヘルプ
- ・DVD-Videoディスクの映像をテレビに映すには→PART2の「外部映像出力端子」(p.65)



チェック

このパソコンではリージョンコード(国別地域番号)が2またはフリーに設定されているDVD-Videoディスクのみ再生することができます。

CD-RやCD-RWにデータを書き込む

このパソコンにインストールされている「RecordNow DX」で、CD-RやCD-RWへのデータを書き込みや、音楽CDなどから好きな曲を選んでCD-Rに書き込み、オリジナル音楽CDを作ることができます。



チェック

- ・ お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについての著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を受けていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製に関する注意事項にしたがってください。
- ・ コピーコントロールCDなど、一部の音楽CDではオリジナル音楽CDを作成できない場合があります。
- ・ 書き込みを行う前には必ず、他のアプリケーションは終了し、スクリーンセーバーや常駐プログラムを解除してください。
- ・ 書き込みに失敗したメディアは再生できなくなります。書き損じによるメディアの補償はできませんので、ご注意ください。
- ・ データを書き込むときは、書き込み中に省電力状態にならないように設定してください。
- ・ 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のドライブでは使用できない場合がありますので、ご注意ください。



参照

- ・ 「RecordNow DX」について → 「ばそガイド」 「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」
- ・ 自動的に省電力状態にならないように設定する → このPARTの「省電力機能」の「省電力機能の設定をする」(p.33)

フロッピーディスクドライブ

使用できるディスク

USBフロッピーディスクドライブ添付のモデルでは次の種類のフロッピーディスクが使用できます。

- 読み込み、書き込み
1.44Mバイトまたは720Kバイトでフォーマットされたディスク
- フォーマット
1.44Mバイト



参照

フロッピーディスクのフォーマット→Windowsのヘルプ

フロッピーディスクドライブの接続のしかたと取り外し方

フロッピーディスクを使用する前に、フロッピーディスクドライブをパソコンに接続してください。

フロッピーディスクドライブの接続

- 1 添付のフロッピーディスクドライブのプラグを、パソコンのUSBコネクタ () に接続する。
USBコネクタへの接続→PART2の「USBコネクタ」(p.57)

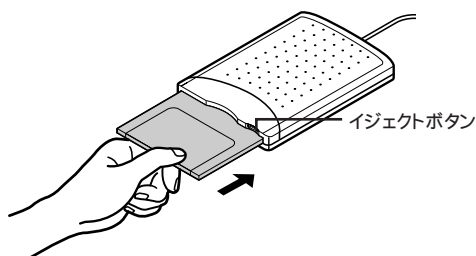
フロッピーディスクドライブの取り外し

フロッピーディスクドライブを接続すると、画面右下の通知領域に  が表示されます。PART2の「周辺機器を使用するときのポイント」の「周辺機器の取り付け/取り外しのポイント」をご覧ください、正しい手順で取り外してください。

フロッピーディスクのセットのしかたと取り出し方

フロッピーディスクをセットする

- 1 カチッと音がするまでフロッピーディスクを水平に差し込む
フロッピーディスクがセットされるとイジェクトボタンが少し飛び出します。



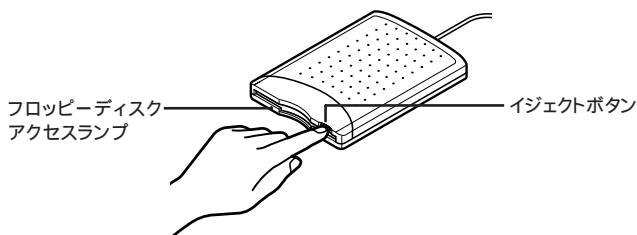
フロッピーディスクを取り出す



チェック

フロッピーディスクアクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

- 1 イジェクトボタンを押す
フロッピーディスクが少し飛び出します。



- 2 フロッピーディスクを水平に引き出す

フロッピーディスクドライブを使用するときの注意

- ・ PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- ・ ディスクのコピーを行う場合、コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。
- ・ フォーマットしていないフロッピーディスクを使用すると、処理に時間がかかる場合があります。

液晶ディスプレイ

このパソコンの液晶ディスプレイで表示可能な解像度や表示色、解像度と表示色の変更方法については、「ばそガイド」『パソコンの設定』『画面の設定』『ディスプレイの設定』をご覧ください。



参照

このパソコンで表示できる解像度と表示色 → PART3の「本体機能一覧」(p.79)

画面の明るさを調節する

画面の明るさ(輝度)を8段階で調節することができます。画面の明るさの調節はキーボードの次のキーで行います。

機能	キー操作	説明
輝度を上げる(▲☀)	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
輝度を下げる(▼☀)	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。

便利な表示機能

ディスプレイストレッチ機能

ディスプレイストレッチ機能は、このパソコンの液晶ディスプレイの解像度よりも低い解像度でWindowsを使用している場合に、液晶ディスプレイに画面を拡大して表示する機能です。ディスプレイストレッチ機能の設定については、「ばそガイド」『パソコンの設定』『画面の設定』『ディスプレイの設定』をご覧ください。

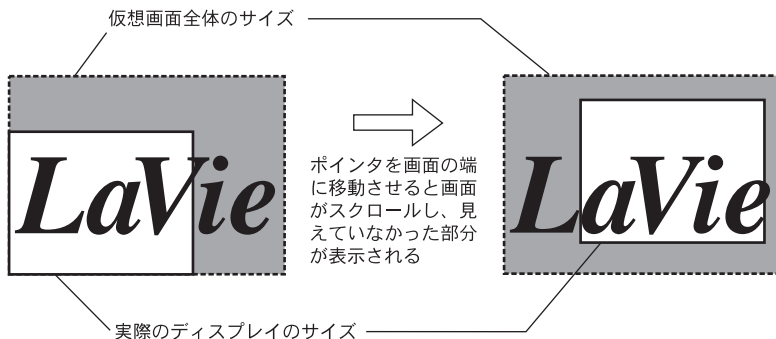


メモ

【Fn】を押しながら【F5】を押すことで、画面を拡大表示する／しないを切り替えることもできます。

バーチャルスクリーン

ディスプレイが表示可能な解像度よりも、大きな解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面サイズよりも大きくなるため、ディスプレイには仮想画面の一部が表示された状態になります。



参照

- ・このパソコンで表示可能な解像度と表示色 → PART3の「本体機能一覧」(p.79)
- ・バーチャルスクリーンの設定 →  「パソコンの設定」 「画面の設定」 「ディスプレイの設定」

バッテリー

このパソコンは、コンセントがない場所でもバッテリーのみで使用できます。ACアダプタをパソコンから取り外すと自動的にバッテリー駆動になります。バッテリーのみでの駆動時間は限られていますので、長時間使用するときは、省電力機能を使用することをおすすめします。

バッテリーのみでの駆動時間については、PART 3の「本体機能一覧 (p.79)」をご覧ください。

バッテリーでパソコンを使う

バッテリーの残量を確認するには

バッテリーのみで使用中は、バッテリーの残量に注意してください。バッテリーの残量は、次の方法で確認できます。

■ 電源ランプで確認する

電源ランプの状態で、バッテリー残量を確認できます。

① 電源ランプ

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリー残量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー残量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリー残量が残りをわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー残量が残りをわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

■ 画面右下の通知領域で確認する

の上にポインタをあわせると、バッテリー残量が表示されます。また、をダブルクリックすると、バッテリーについての詳しい情報が表示されます。

■ 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで確認する

- 1 「スタート」「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」が表示されます。

2 「電源メーター」タブをクリックする

バッテリーの状態を確認できます。

バッテリーの残量が少なくなったら

バッテリー残量が少なくなった場合は、次のどちらかの操作を行ってください。

- ACコンセントが使えないとき

使えるACコンセントが近くにない、ACアダプタを持ってきていないなどの理由で、すぐにACコンセントを使用できないときは、使用中のアプリケーションを終了して、パソコンの電源を切ってください。

- ACコンセントが使えるとき

ACアダプタを持っていて、使えるACコンセントが近くにあるときは、パソコンにACアダプタを接続してコンセントから電源を供給してください。バッテリー充電ランプ(□)が点灯し、バッテリーの充電がはじまります。



バッテリーを充電しながらパソコンを使用することもできます。

上記の操作をしないで、バッテリー残量が少ないままバッテリーのみで使用していると、再度バッテリー残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると自動的に休止状態(p.29)になります。



チェック

フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、パソコンの電源が切れると、作成中のデータや、フロッピーディスク、ハードディスクのデータが失われたり、壊れることがあります。

バッテリーでパソコンを使用しているときに、バッテリー残量が少なくなった場合や残りわずかになった場合の動作は、次の手順で設定できます。

■ バッテリー残量が少なくなったときの動作の設定

バッテリーでパソコンを使用中に、バッテリー残量が少なくなった場合や残りわずかになった場合のパソコンの動作を設定できます。

次の手順で設定してください。

1 「スタート」「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックする

「電源オプションのプロパティ」が表示されます。

2 「アラーム」タブをクリックする

- 3 バッテリー残量が少ないとき(バッテリー低下アラーム)と、バッテリー残量が残りわずかなとき(バッテリー切れアラーム)の□が☑になっていることを確認する
□になっている場合、□になっているアラームは動作しません。

4 「アラームの動作」をクリックする

表示されるウィンドウで、次の項目を設定できます。

- ・ 通知方法
音やテキストでバッテリー残量を知らせるかどうかを設定できます。
- ・ アラームの動作
「アラーム後のコンピュータの動作」の左の□をクリックして☑にすると、設定したバッテリー残量になったときの動作をスタンバイ、休止状態、シャットダウンから選択できます。□になっている場合は何もしません。
- ・ プログラムの実行
「アラーム時に、このプログラムを実行する」の左の□をクリックして☑にすると、設定したバッテリー残量になったときにプログラムを実行できます。「プログラムの構成」を押して、実行するプログラムの設定をしてください。

5 「OK」をクリックする

バッテリーを充電する

バッテリーを充電するときの注意

- ・ バッテリーの充電中は、バッテリーパックをパソコンから取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・ できるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない状態で少量の充放電を繰り返すと、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。
- ・ 購入直後や長期間放置したバッテリーは、必ずフル充電してから使用してください。

バッテリー充電のしかた

バッテリーパックをパソコンに取りつけて、ACアダプタをACコンセントに接続してください。自動的にバッテリーの充電がはじまります。

バッテリーが充電中かどうかは、バッテリー充電ランプ(□)で確認できます。

□ バッテリー充電ランプ

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了



参照

バッテリーの充電時間 → PART3の「本体機能一覧」(p.79)

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるために行います。次のようなときには、バッテリーリフレッシュを実行してください。

- ・ バッテリーでの駆動時間が以前よりも短くなったとき
- ・ 購入直後や、長期間の放置でバッテリーの性能が一時的に低下したとき
- ・ バッテリーの残量表示に誤差が生じているとき

バッテリーリフレッシュの実行

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 バッテリーリフレッシュを行いたいバッテリーパックをパソコンに取り付ける
- 3 パソコンにACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに差し込む
バッテリー充電ランプ(□)が点滅している場合は、一度ACアダプタを取り外し、バッテリーパックを取り付けなおしてください。
- 4 バッテリーをフル充電する
バッテリーがフル充電されると、バッテリー充電ランプが消灯します。
- 5 BIOSセットアップユーティリティを起動する(p.77)
- 6 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 7 【→】を押して「終了」メニューを選び、【↓】を押して「バッテリーリフレッシュ」を選んでから【Enter】を押す
「実行しますか？」と表示されます。

8 「はい」を選んで【Enter】を押す

9 【Y】を押す

バッテリーリフレッシュがはじまります。



チェック

バッテリーリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。
また、バッテリーリフレッシュ中はACアダプタを接続しないでください。

バッテリーリフレッシュが完了すると、自動的にパソコンの電源が切れます。

バッテリーリフレッシュを中断する

バッテリーリフレッシュを中断するときは、電源スイッチを4秒以上押し続けてください。
バッテリーリフレッシュが中断されて、パソコンの電源が切れます。



メモ

バッテリーリフレッシュ中に電源スイッチを押したり、ACアダプタを接続すると、バッテリーリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。その場合、ACアダプタを取り外して「Continue Battery Refresh」を選んでください。バッテリーリフレッシュが続行します。

バッテリーパックを交換する

バッテリーリフレッシュを行ってもバッテリーの性能が回復しない場合は、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

このパソコンで使用できる交換用バッテリーパック

このパソコンに取り付けることのできる交換用のバッテリーパックは、次の表のとおりです。

品名	型番
バッテリーパック(リチウムイオン)	PC-VP-WP46

バッテリーパックの交換をするときの注意

- ・ バッテリーやバッテリースロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態のままではバッテリーパックを交換しないでください。バッテリーパックの交換を行うときは、休止状態またはスタンバイ状態を解除してパソコンの電源を切ってください。
- ・ 特に必要でない限り、バッテリーパックを交換しないでください。故障の原因となります。

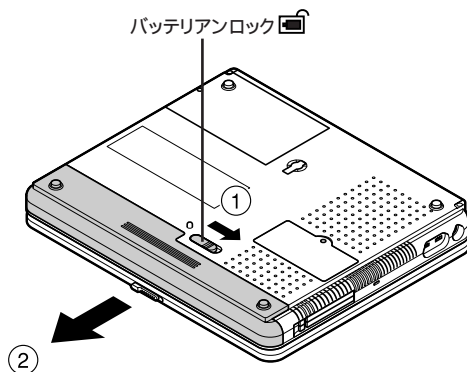
バッテリーパックの交換のしかた



ベースカバーを取り付けている場合は、ベースカバーを取り外してください。ベースカバーの取り付け / 取り外しについては『はじめにお読みください』をご覧ください。

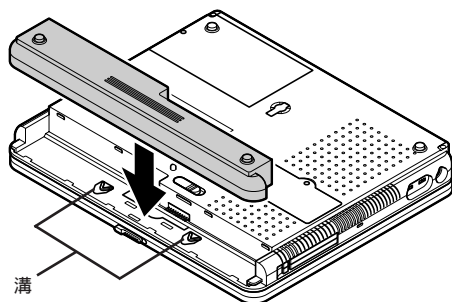
- 1 パソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す

- 4 バッテリーアンロック()を矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリーパックを矢印の方向にスライドさせて取り外す



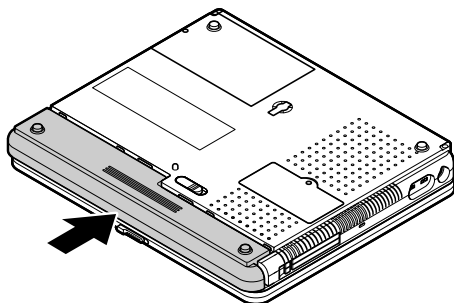
- 5 新しいバッテリーパックを挿入する

バッテリーパックの向きに注意して、パソコンの溝とバッテリーパックのツメの位置をあわせて挿入してください。



6 バッテリーパックを取り付ける

矢印の方向にスライドさせ、カチッと音がするまでしっかり取り付けてください。



バッテリーパックのリサイクルについて

- ・ 本機はリチウムイオン電池を使用しています。
- ・ リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。交換後不要になった電池、および使用済みの製品から取り外した電池のリサイクルに際しては、ショートによる発煙、発火のおそれがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るかポリ袋に入れて、以下の拠点に設置した充電式電池回収BOXに入れてください。
 - 個人ユーザー：充電式電池リサイクル協力店くらぶ
詳細は、電池工業会ホームページ(<http://www.baj.or.jp/>)をご覧ください。
 - 法人ユーザー：NEC法人向け二次電池持ち込み拠点
詳細は、NEC環境ホームページ(<http://www.nec.co.jp/japanese/profile/kan/index.html>)をご覧ください。
- ・ リサイクル協力店のお問い合わせは、下記へお願いします。
 - 製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
 - (社)電池工業会小型二次電池再資源化推進センターおよび充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局
- ・ リサイクル時のご注意
 - 電池はショートしないようにしてください。火災・感電の原因となります。
 - 外装カバー(被膜・チューブなど)をはがさないでください。
 - 電池を分解しないでください。



省電力機能

省電力機能を使用すれば、一定時間パソコンを操作しなかったときなどに、電力を節約することができます。

また、使用を一時中断したいときなどに、省電力機能を設定しておけば、あとから作業を再開するときに、普通に電源を切ったときよりも速くパソコンを起動して作業を再開できます。



メモ

バッテリーのみでパソコンを使っているときは、バッテリーを効率よく使え、駆動時間を長くできます。

省電力機能について

省電力状態とは

省電力機能によってパソコンが電力を節約している状態を、省電力状態と呼びます。省電力状態には、「スタンバイ状態」と「休止状態」があります。また、これらをまとめて「スリープ状態」と呼ぶ場合もあります。

● スタンバイ状態

パソコンの液晶ディスプレイやハードディスクなどの電源を切り、消費電力を節約している状態です。パソコンの電源は完全には切れていません。作業中のデータがメモリに保存されているため、わずかに電力を消費しますが、スタンバイ状態を解除すると、すぐに作業の続きをはじめることができます。少しの間、作業を中断する場合などに便利です。

● 休止状態

パソコンの状態や作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切っている状態です。休止状態を解除すると、休止状態にする前の状態から作業を続けることができます。Windowsを終了していないので、Windowsの起動にかかる時間は短くなります。



メモ

アプリケーションによっては、スタンバイ状態のことを「サスペンド」、休止状態のことを「ハイバネーション」、省電力状態から復帰することを「レジューム」と呼ぶことがあります。

省電力状態の確認

パソコンが省電力状態になっているかどうかは、電源ランプ(①)で確認できます。

①電源ランプ

ランプ	状態
緑点滅	スタンバイ状態
黄色点滅	スタンバイ状態でバッテリー残量が少ない
オレンジ点滅	スタンバイ状態でバッテリー残量が残わずか
消灯	電源が切れている、または休止状態



チェック

電源ランプが点灯状態のときは、省電力状態になっていません。詳しくは「バッテリー」の「バッテリーでパソコンを使う」(p.21)をご覧ください。

省電力機能を利用するときの注意

省電力機能を利用できないとき

- 次のようなときには、省電力機能を使用しないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。
 - ハードディスクやフロッピーディスク、CD-ROMなどのディスクの読み書きをしているとき
 - 省電力状態に対応していないアプリケーションや周辺機器を使用しているとき
 - 音声または動画ファイルを再生しているとき
 - プリンタへ出力しているとき
 - LANまたはワイヤレスLANでファイルコピーなどの通信作業をしているとき
 - 通信用のアプリケーションを使用しているとき
 - 電話回線を使って通信しているとき
 - 「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されているとき
 - Windowsの起動 / 終了処理中
- NEC製プリンタのMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズでPrintAgentをお使いの場合は、スタンバイ機能が正常に動作しないことがあります。その場合は、「省電力機能の設定をする」(p.33)をご覧ください。「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

省電力状態にするときの注意

- ・ 省電力状態への移行中にフロッピーディスクやCD-ROMなどのディスク、PCカードの入れ替えを行わないでください。
- ・ 省電力状態にする前に、フロッピーディスクやCD-ROMなどのディスクを取り出してください。
- ・ 省電力状態のときに、PCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け / 取り外しを行わないでください。
- ・ 休止状態を利用する場合、ハードディスクにパソコンのメモリ容量分の空き容量が必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。確認のしかたについて詳しくは、 『パソコンガイド』『トラブル解決Q&A』『省電力機能』『スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)にできない』をご覧ください。

省電力状態にする

スタンバイ状態にする

購入時の状態では、バッテリー駆動時に一定時間以上キーボードやNXパッドからの入力がないと、自動的にスタンバイ状態になります。また、次の手順でスタンバイ状態にすることもできます。

1 「スタート」「終了オプション」をクリックする

2 「スタンバイ」をクリックする



メモ

次の操作でスタンバイ状態になるように、設定することもできます。

- ・ 電源スイッチを押す
- ・ 液晶ディスプレイを閉じる



参照

省電力機能の設定 → 「省電力機能の設定をする」(p.33)

休止状態にする

購入時の状態では、バッテリー駆動時に一定時間以上キーボードやNXパッドからの入力がないと、自動的に休止状態になります。また、次の手順で休止状態にすることができます。

- 1 「スタート」「終了オプション」をクリックする
- 2 【Shift】を押したまま、「休止状態」をクリックする
【Shift】を押すと、「スタンバイ」が「休止状態」に切り替わります。



メモ

次の操作で休止状態になるように、設定することもできます。

- ・ 電源スイッチを押す
- ・ 液晶ディスプレイを閉じる



参照

省電力機能の設定 → 「省電力機能の設定をする」(p.33)

省電力状態から復帰する

休止状態またはスタンバイ状態から復帰するときの注意

- ・ 休止状態またはスタンバイ状態から復帰するときにパスワードを入力するように設定している場合、パスワード入力画面が表示されるので、パスワードを入力してください。
- ・ タイマ、LAN、FAXモデムの自動受信操作でスタンバイ状態から復帰した場合、液晶ディスプレイに何も表示されないことがあります。その場合は、NXパッドかキーボードを操作してください。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態から復帰後、デバイスの警告メッセージが表示される場合があります。その場合は「OK」をクリックしてください。警告が発生したデバイスは、そのまま使用できます。
- ・ スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から復帰するには、次の操作を行ってください。

- 1 パソコンの電源スイッチを押す
ログオン画面が表示されます。
- 2 ログオンしたいユーザー名をクリックする

上記以外にも次の方法でスタンバイ状態から復帰できます。

- 液晶ディスプレイを開いて復帰する

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合は、液晶ディスプレイを開くとスタンバイ状態から復帰できます。

- タスクスケジューラを使って復帰する

タスクスケジューラを使い、時刻を指定して復帰できます。



参照

タスクスケジューラの使い方 - Windowsのヘルプ

休止状態から復帰する

休止状態から復帰するには、次の操作を行ってください。

- 1 パソコンの電源スイッチを押す
「Windows を再開しています...」と表示された後、ログオン画面が表示されます。
- 2 ログオンしたいユーザー名をクリックする
休止状態にする前の状態でWindowsが起動します。

省電力機能の設定をする

省電力機能の設定は、「コントロールパネル」の「電源オプションのプロパティ」の画面で行います。省電力機能が働くまでの時間や、スタンバイ状態や休止状態にするための操作を設定することができます。



チェック

省電力機能の設定を行う場合は、コンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンしてください。

省電力機能が働くまでの時間を設定する

- 1 「スタート」「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」が表示されます。
- 2 「電源設定」タブをクリックする
- 3 次の項目について、時間を設定する

状態	説明
モニタの電源を切る	ここで指定した時間、何も入力がなかった場合、液晶ディスプレイの電源が切れます。
ハードディスクの電源を切る	ここで指定した時間、ハードディスクへのアクセスがなかった場合、ハードディスクの電源が切れます。
システム スタンバイ	ここで指定した時間、何も入力がなかった場合、自動的にパソコンがスタンバイ状態になります。
システム休止状態	ここで指定した時間、何も入力がなかった場合、自動的にパソコンが休止状態になります。

- 4 「適用」をクリックし、「OK」をクリックする

休止状態やスタンバイ状態にする操作を設定する

- 1 「スタート」「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」が表示されます。
- 2 「詳細設定」タブをクリックする
- 3 「電源ボタン」欄で、それぞれの操作をしたときの動作を設定する
 - ・「ポータブルコンピュータを閉じたとき」
パソコンの液晶ディスプレイを閉じたときの動作を選択します。
 - ・「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
パソコンの電源スイッチを押したときの動作を選択します。

状態	説明
何もしない	その操作をしても、何もしません。
入力を求める	「コンピュータの電源を切る」の画面が表示されます。 動作を決定してください。
スタンバイ	スタンバイ状態にします。
休止状態	休止状態にします。
シャットダウン	Windowsを終了して、パソコンの電源を切ります。

：「コンピュータの電源ボタンを押したとき」のみ設定可能



チェック

休止状態を利用する場合は、「休止状態」タブをクリックして、「休止状態を有効にする」が☒になっていることを確認してください。

4 「適用」をクリックして、「OK」をクリックする

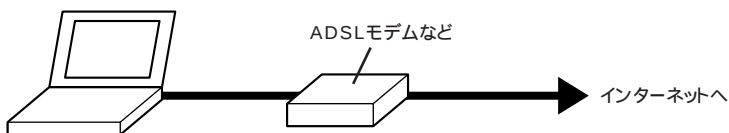
LAN(ローカルエリアネットワーク)

LANコネクタを使ってできること

接続する機器によって次のようなことができます。

■ ブロードバンドでインターネットに接続する

LANコネクタにADSLモデムやCATVモデムを接続してブロードバンドでインターネットに接続することができます。



■ ネットワークを作る

ネットワークを作ると、複数のパソコンでプリンタやファイルを共有することができます。

■ 複数のパソコンでインターネット接続を共有する

ブロードバンドルータを使用すると、複数のパソコンでのプリンタやファイルの共有だけでなく、複数のパソコンから同時にインターネットを使用することができます。

LANケーブルを接続する

接続するときの注意

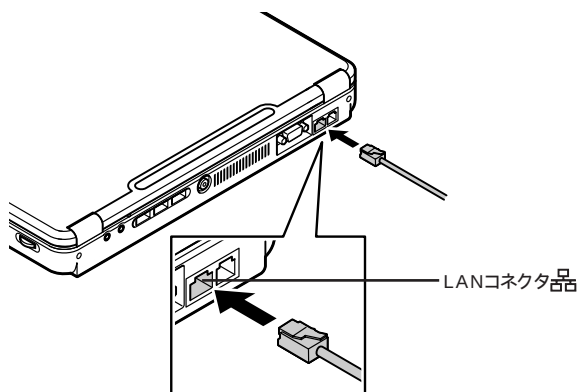
- ・ LANケーブルは別売です。
- ・ 接続するLANや機器の規格にあったLANケーブルを用意してください。
- ・ 100BASE-TXでLANに接続するためには、カテゴリー5のLANケーブルが必要です。

チェック

LANケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルの2種類があります。目的によって使用するケーブルが違うので、購入の際は注意してください。どちらのケーブルが必要かは、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

接続のしかた

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 LANケーブルのプラグを向きに注意して、パソコンのLANコネクタ(品)に接続する



- 3 LANケーブルのもう一方のプラグを、ADSLモデムやハブなどの機器のLANコネクタに接続する
詳しくは、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

ネットワークの設定

ネットワークの設定をする

ADSLモデムやCATVモデム、ルータを使用してインターネットに接続するための設定については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

ネットワークの設定は、次の方法で行います。

- 1 「スタート」「コントロールパネル」「ネットワークとインターネット接続」「ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する」をクリックする
「ネットワークセットアップウィザード」が表示されます。

- 2 画面の説明を読み、設定を行う

LANの設定について→「パソコンガイド」「パソコンの設定」「ネットワークの設定」「LANの設定」



チェック

LANの設定を行うとPCGATE Personalの「ネットワーク セキュリティ ウィザード」が表示されます。「パソコンガイド」の「ウイルスとトラブルの予防」の「不正アクセスからパソコンを守るには」をご覧ください、設定を行ってください。

ネットワーク上の自分のパソコンを確認する

ネットワークの設定を行うと、「マイネットワーク」にお使いのパソコンの名前が表示されます。「スタート」「マイコンピュータ」の「マイネットワーク」をクリックして確認してください。

セキュリティの設定

常時接続を行っていると、パソコンへの不正侵入を受けやすくなります。このパソコンにインストールされている「PCGATE Personal」を使って、セキュリティの設定をしてください。



参照

「PCGATE Personal」について→「パソコンガイド」「アプリケーションの紹介と説明」「50音別目次」

電源回復(スタンバイ状態からの復帰)の設定

このパソコンをネットワークに接続している場合、電源回復イベントが発生するとパソコンをスタンバイ状態から自動的に復帰させることができます。詳しい設定方法については、「ばそガイド」『パソコンの設定』『ネットワークの設定』『LANの設定』をご覧ください。



チェック

- ・電源回復を使用する場合は、パソコンにACアダプタを取り付けてコンセントからの電源で使用してください。
- ・電源回復の設定をすると、購入時の状態にくらべてパソコンの消費電力が大きくなり、バッテリーのみで使用する場合、使用できる時間が短くなります。バッテリーのみで使用する時間を優先する場合は、電源回復の設定は行わないでください。

LAN使用上の注意

- ・ネットワークを使用している間はLANケーブルをパソコンや機器から取り外さないでください。
- ・ネットワークとの通信中は、パソコンを休止状態やスタンバイ状態にしないでください。
- ・100BASE-TX / 10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元や当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・ネットワーク通信をすると、バッテリーのみで使用可能な時間が短くなります。長時間の通信をするときは、パソコンにACアダプタを接続しコンセントからの電源で使用してください。

2.4GHzワイヤレスLAN

ここでは、2.4GHzワイヤレスLANモデルについての説明をしています。それ以外のモデルで2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用する場合は、別売の機器が必要になります。

2.4GHzワイヤレスLAN機能の紹介

2.4GHzワイヤレスLAN機能でできること

このパソコンの2.4GHzワイヤレスLAN機能と、2.4GHzワイヤレスLAN対応機器を使用することで、次のようなことができます。

■ ワイヤレスでインターネットに接続

2.4GHzワイヤレスLANに対応したADSLモデムなどの通信機器に2.4GHzワイヤレスLAN機能で接続すれば、パソコンにケーブルをつなぐことなくインターネットへのアクセスができます。

■ ワイヤレスLANネットワークを作る

2.4GHzワイヤレスLAN機能に対応したパソコンや機器でネットワークを作れば、ケーブルで接続したり、ディスクなどの媒体を使用しなくてもファイルのやりとりなどが可能です。2階のパソコンと1階のパソコンでファイルのやりとりをするなど、これまでのケーブル接続を必要としたLANでは少し面倒だったことも可能になります。



チェック

2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用したネットワークへの接続には、別売の無線LANアクセスポイントやレジデンシャルゲートウェイなどが必要です。

接続できる機器

- ・ このパソコンの2.4GHzワイヤレスLAN機能は「IEEE802.11b」という規格に対応しています。「IEEE802.11b」に対応している機器と2.4GHzワイヤレスLAN機能で接続できます。ただし、機器によっては接続できないこともあるので、機器を購入する前にメーカーや販売店に確認してください。
- ・ このパソコンに接続できるNEC製の2.4GHzワイヤレスLAN対応機器については、NECのパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com(ワントゥワンウェア ドットコム)」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

2.4GHzワイヤレスLAN機能の通信距離と速度

■ 通信できる距離

2.4GHzワイヤレスLAN機能では、このパソコンと相手の機器との間に壁などの障害物がなければ、70m程度まで通信ができます。ただし、家庭やオフィスには通信の障害となるものがあるため、通信できる距離はもっと短くなります。

■ 通信速度

規格上は11Mbpsが最大の通信速度となりますが、一般にはその50%以下の速度で通信が行われます。

通信速度は、パソコンと相手の機器の間の電波の状態や距離によっても変化します。また、通信状態が悪くなって通信が途切れそうになると、通信が途切れないようにするために、自動的に通信速度を落とす機能があります。

現在、どのくらいの速度で通信しているかは、画面右下の通知領域の  をダブルクリックすると表示される画面で確認できます。

安定した通信をするために

- ・ パソコンと相手の機器との距離は、できるだけ近くする。
- ・ 通信中は近くで同じ周波数帯域を使用する電子レンジや他の無線機器を使わない。

2.4GHzワイヤレスLAN機能のセキュリティ

このパソコンの2.4GHzワイヤレスLAN機能は「WEP機能」に対応しています。「WEP機能」に対応していることで、2.4GHzワイヤレスLAN機能での通信を盗聴されたり、関係のないパソコンや機器と接続することを防ぐことができます。WEP機能には「64ビットWEP対応」のものと「128ビットWEP対応」のものがありますが、このパソコンの2.4GHzワイヤレスLAN機能は、「64ビットWEP機能」「128ビットWEP機能」の両方に対応しています。



メモ

WEP機能を使用するには、通信する相手の機器もWEP機能に対応している必要があります。



参照

WEP機能の設定 → 「ばさガイド」「パソコンの設定」「ネットワークの設定」「ワイヤレスLANの設定(2.4GHzワイヤレスLANモデル)」

2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン/オフ

他の機器に影響をあたえる場合や、2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用しないとき、ワイヤレスLAN機能が使用できない環境で本機を使用するときは、必ず2.4GHzワイヤレスLAN機能をオフにしてください。

2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン/オフの状態は、パソコン本体のワイヤレスランプ()で確認できます。

ワイヤレスランプ

ランプ	状態
緑点灯	オン(2.4GHzワイヤレスLAN機能が使用可能)
消灯	オフ(2.4GHzワイヤレスLAN機能が使用不可)



チェック

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」の画面で切り替えた場合は、ワイヤレスランプでは確認できません。

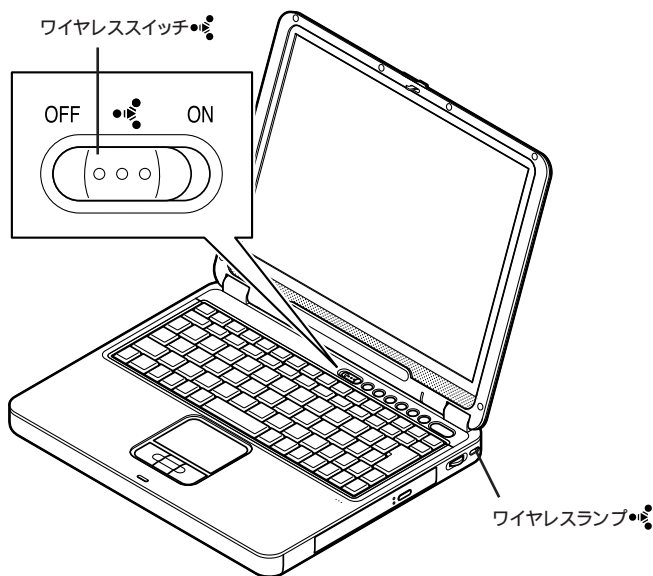
2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン / オフのしかた

2.4GHzワイヤレスLAN機能をオン / オフするには、次の方法があります。

■ ワイヤレススイッチで切り替える

ワイヤレススイッチを使って、2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン / オフを切り替えることができます。

ワイヤレススイッチを右にスライドさせるとオンになり、左にスライドさせるとオフになります。



■ 「ワイヤレスネットワーク接続の状態」の画面で切り替える

● チェック

この方法で切り替えると、ワイヤスランプで2.4GHzワイヤレスLAN機能の状態の確認はできません。

● オフにする

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」の画面で「無効にする」をクリックする

- オンにする

「スタート」 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「通信」 「ネットワーク接続」をクリックし、「ワイヤレスネットワーク接続」アイコンをダブルクリックする

2.4GHzワイヤレスLAN機能の設定を行う

2.4GHzワイヤレスLANへの接続のしかたや設定について詳しくは、 「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「ネットワークの設定」 「ワイヤレスLANの設定(2.4GHzワイヤレスLANモデル)」をご覧ください。



チェック

LANの設定を行うとPCGATE Personalの「ネットワーク セキュリティ ウィザード」が表示されます。 「ばそガイド」の「ウイルスとトラブルの予防」の「不正アクセスからパソコンを守るには」をご覧ください、設定を行ってください。

モデム

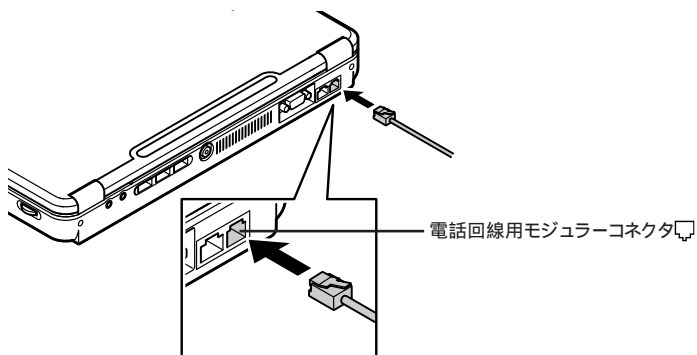
電話回線に接続する

● チェック

モジュラーケーブルを接続するには、お使いの電話回線のコネクタがモジュラーコンセントになっている必要があります。お使いの電話回線が3ピンプラグ式コンセントの場合は、市販のモジュラーコンセントへの変換プラグが必要です。

直結配線方式の場合はモジュラーコンセントへの変更が必要になります。詳しくはNTTへご相談ください。

- 1 壁面などのモジュラーコンセントから、電話機などのモジュラーケーブルを取り外す
- 2 パソコンの電源を切る
- 3 モジュラーケーブルのプラグを向きに注意して、パソコンの電話回線用モジュラーコネクタ(□)に接続する



4 モジュラーケーブルのもう一方のプラグを、壁面などのモジュラーコンセントに接続する

電話回線のモジュラーコンセントが1つの場合、パソコンで通信をするときは電話機のモジュラーケーブルを取り外す必要があります。また、市販の分岐アダプタを使用すれば、電話機とパソコンの両方を接続できます。

チェック

- ・ 分岐アダプタを使用しても、パソコンでの通信と電話機の使用を同時に行うことはできません。
- ・ パソコンで通信しているときは、電話機の受話器を外さないでください。通信が切断されることがあります。

モデムを使う

パソコンのモデムを使ったインターネットへの接続のしかたや設定について詳しくは、「ばそガイド」『パソコンの設定』『通信の設定』『モデムの設定』をご覧ください。

インターネットへの通信環境を切り替える

「MobileOptimizer」を使うと、ダイヤルアップ接続とLAN接続の切替や、ダイヤルアップ先の切替が簡単にできます。オフィスと自宅の両方で接続する場合や複数のプロバイダと契約している場合に便利です。

チェック

「MobileOptimizer」は購入時にはインストールされていません。「ソフトナビゲーター」からインストールしてください。

参照

「MobileOptimizer」について→「ばそガイド」『パソコンの設定』『ネットワークの設定』『MobileOptimizer』または「スタート」『すべてのプログラム』『MobileOptimizer』『MobileOptimizer ヘルプ』

通信が終了したら

通信が終了したら、画面右下の通知領域にが表示されていないことを確認してください。

モデムを使用するときの注意

- ・ このパソコンのモデムは海外では使用できません。
- ・ 通信を行うときは、使用していないアプリケーションは終了してください。
- ・ 通信中は休止状態やスタンバイ状態にしないでください。
- ・ ダイヤルアップ接続中またはダイヤルアップ接続で通信中に、【Fn】を使ってディスプレイの切り替えや画面の伸縮をしたり、ピープ音や輝度の調節を行わないでください。ダイヤルアップ接続できない場合や通信が切断される場合があります。
- ・ 内蔵FAXモデムは一般加入電話回線のみに対応しています。それ以外の回線に接続すると故障、破損の原因になります。
- ・ 回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ったり、希望の通信速度では通信できない場合があります。
- ・ キャッチホンサービスをご利用の場合、通信中に電話がかかってくると、モデムでの接続が切断されることがあります。
- ・ コードレスホンや親子電話など加入電話回線以外の回線を使っている場合、正常なデータ通信ができないことがあります。
- ・ 電話局の交換機の種類によっては、14,400bpsでのファクシミリ通信ができない場合があります。その場合は通信速度を9,600bpsに変更してください。
- ・ データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。
- ・ 構内交換機(PBX)の種類によっては、内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。
- ・ 通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。
- ・ 回線状況が悪く、うまく接続ができない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整を、工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定の窓口にご相談ください。
- ・ ハイパーターミナルなどを使用して通信する場合はATコマンドが必要です。ATコマンドについては、「ばそガイド」「パソコンの設定」「ハードウェア情報」「ATコマンド」をご覧ください。
- ・ このパソコンのモデムはデータ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信の各機能が使用できますが、添付のアプリケーション以外では機能が使用できない場合があります。これらの機能について詳しくは、「ばそガイド」をご覧ください。

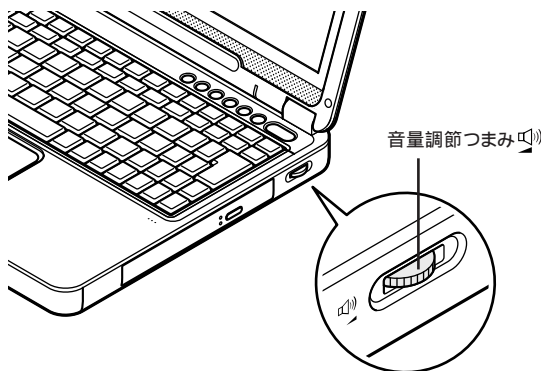
サウンド機能

音量を調節する

音量調節つまみを使う

音量調節つまみ()で内蔵スピーカの音量を調節できます。

音量を上げたいときは音量調節つまみを背面側に回し、下げたいときは前面側に回します。



ボリュームコントロールを使う

Windowsのボリュームコントロールを使うと、内蔵音源の再生音量や録音するときの入力レベルを調節することができます。



参照

ボリュームコントロールの使い方 →  「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「サウンドの設定」 「サウンドの設定」

音楽CDからのデジタル出力設定

このパソコンでは、音楽CDの再生音をデジタル出力することができます。



参照

音楽CDからデジタル出力にするための設定について →  「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「サウンドの設定」 「サウンドの設定」

サウンドの設定

「SoundMAXコントロール パネル」を使って、マイクの設定やMIDIサウンドの設定ができます。MIDIサウンドの設定では、GS、XG-Lite、GeneralMIDIのサウンドが設定できます。詳しくは、「ばそガイド」『パソコンの設定』『サウンドの設定』『サウンドの設定』をご覧ください。

P A R T

2

パソコンにつなぐ

周辺機器を使用するときのポイント

周辺機器の購入や、実際に使用するときのポイントを簡単にご紹介します。

周辺機器を選ぶときのポイント

周辺機器は種類が多く、どれを選べばよいかわ迷うことがあるかもしれません。周辺機器を購入するときは、次の点に注意して、自分の目的にあった製品を選びましょう。

買う前に確認しておくこと

- 目的にあっているか、欲しい機能はついているか

たとえば一口でプリンタといっても、写真画質の印刷が得意なものや、文章の印刷が速いものなど、製品によって機能に違いがあります。その製品が自分の目的にあっているか、欲しい機能はついているかを確認しておきましょう。

- このパソコンで使用できるか

周辺機器がこのパソコンで使えるかを確認しておきましょう。次のようなチェックポイントがあります。

- このパソコンに接続できるか

パソコンと周辺機器を接続する方法は何種類もあります。周辺機器を接続するのに必要なコネクタやスロットがこのパソコンに用意されているかを確認しておきましょう。

- このパソコンのOSに対応しているか

このパソコンにはWindows XPがインストールされています。周辺機器がWindows XPで使えるかを確認しておきましょう。

- インターネット接続と周辺機器

ADSL回線に接続するにはADSLモデム、CATV回線に接続するにはCATVモデム、ISDN回線に接続するにはターミナルアダプタ(TA)を使います。お使いの回線の種類にあわせて、それぞれの周辺機器を用意する必要があります。CATVやADSLでは、接続業者が指定した機種しか使えなかったり、契約後に接続業者から送られてきたりすることが多いので、買う前に各接続業者に確認しておきましょう。

情報を集めるには

周辺機器についての情報を集めるには、次のような方法があります。

- 121ware.comで調べる

NECのパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com(ワントゥワンウェア ドットコム)」では、NECの周辺機器の情報や、NEC製のパソコンと周辺機器の対応を確認できます。また、ショッピングのページでは、いろいろな周辺機器をインターネット上で購入でき、大変便利です。

<http://121ware.com/>

買うときに確認すること

実際に周辺機器を購入するときには、次の点を確認しておきましょう。よくわからないときは、販売店に確認してください。

■ 周辺機器を使うために必要なものはそろっているか

周辺機器によっては、パソコンとの接続に必要なケーブルや専用接続キット(アダプタ類、電源ケーブルなどのセット)を別途購入しなければならないこともあります。必要なものが別売のときは一緒に購入しておきましょう。

■ 必要な消耗品はないか

たとえば、プリンタには、用紙やインクが必要です。消耗品が添付されていないときは、周辺機器と一緒に購入しましょう。

周辺機器をはじめて接続するときのポイント

周辺機器のマニュアルを読む

周辺機器の取り付けをする前に、まず周辺機器に添付されているマニュアルをよく読みましょう。周辺機器を使う上で大事な情報が書かれています。周辺機器のマニュアルを読むときは、次の点を確認しておきましょう。

● 取り付けの手順

取り付ける前に、デバイスドライバやソフトウェアのインストールが必要な場合があります。取り付けの手順を確認して、手順どおりに行ってください。

● パソコンの電源のオン / オフ

パソコンの電源を入れて取り付けるものと、切った状態で取り付けるものがあります。

● デバイスドライバのインストールや設定

Windowsにドライバが準備されていない場合や、専用のドライバを使う場合など、デバイスドライバのインストールや設定が必要なことがあります。周辺機器のマニュアルや次のページの「デバイスドライバ」をご覧ください。

● Windowsの設定

周辺機器によっては、Windowsの設定を変更する必要があるものがあります。

周辺機器を取り付けるときの注意

■ パソコンが省電力状態のときは周辺機器の取り付けを行わない

省電力状態のときに周辺機器を接続すると、パソコンや周辺機器が正常に動作しなくなることがあります。省電力状態になっているときは、省電力状態を解除してから取り付けてください。

■ 周辺機器は1つずつ取り付ける

複数の周辺機器を取り付けるときは、1つずつ取り付けて、正しく動作したことを確認してから次の周辺機器を取り付けてください。一度に取り付けると、正しく動作しないことや、問題が起きたときの原因の周辺機器がわかりにくくなります。

デバイスドライバ

デバイスドライバとは、パソコンと周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、「ドライバ」と呼ぶこともあります。周辺機器によっては、パソコンにデバイスドライバをインストールする必要があります。

周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかによって、ドライバのインストール方法が異なります。詳しくは周辺機器のマニュアルで確認してください。

■ 「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器

● Windows XPにドライバが準備されている場合

周辺機器を接続してWindowsを起動すると自動的にドライバのインストールが行われ、周辺機器が使用できる状態になります。周辺機器によってはインストール後に設定が必要なこともありますので、周辺機器のマニュアルで確認してください。

● Windows XPにドライバが準備されていない場合 / 専用のドライバがある場合

周辺機器に付属のCD-ROMなどからドライバをインストールする必要があります。周辺機器によっては、取り付けの前にドライバのインストールが必要な場合もあります。

ドライバの詳しいインストール手順や設定方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器

周辺機器を使うためには、ドライバのインストールが必要です。周辺機器のマニュアルにしたがってドライバのインストールをしてください。

ドライバのインストールがうまくいかなかった場合は、周辺機器のマニュアル、周辺機器メーカーのホームページ、または  「ばそガイド」「トラブル解決Q&A」「周辺機器」をご覧ください。

周辺機器の取り付け / 取り外しのポイント

周辺機器を取り付け / 取り外しをするときの注意

省電力状態のときは、周辺機器の取り付け / 取り外しは行わないでください。

周辺機器の取り付け

一度接続して、使用するための設定を済ませた周辺機器を再接続する場合、ドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージにしたがってください。画面が止まったように見える場合も機器の故障ではありません。しばらく待つと使用できます。

周辺機器の取り外し

周辺機器の中でも、USB対応機器、IEEE1394対応機器、PCカードなどは、パソコンの電源を入れたままでも取り付けや取り外しができます。

ただし、画面右下の通知領域にが表示されているときは、次の手順で取り外しを行ってください。次の手順で取り外しをしないと、パソコンが正常に動作なくなることがあります。

- 1 画面右下の通知領域にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されます。
- 2 取り外したい周辺機器名またはPCカード名をクリックして、「停止」をクリックする
周辺機器名やPCカード名が表示されていない場合は、手順4へ進んでください。
- 3 「ハードウェア デバイスの停止」で取り外したい周辺機器名やPCカード名をクリックして「OK」をクリックする
画面右下の通知領域に安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「閉じる」をクリックして、「ハードウェアの安全な取り外し」を閉じる
これで周辺機器またはPCカードを取り外すことができます。

USBコネクタ

USBコネクタには、プリンタやイメージスキャナなど、さまざまなUSB機器を取り付けることができます。このパソコンのUSBコネクタはUSB2.0に対応しており、USB2.0に対応している外付けハードディスクなどの周辺機器を利用できます。基本的な取り付け方はどのUSB対応機器でも同じです。

USBコネクタについて

このパソコンのUSBコネクタ

このパソコンには、USB 2.0に対応したUSBコネクタが用意されています。USBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。

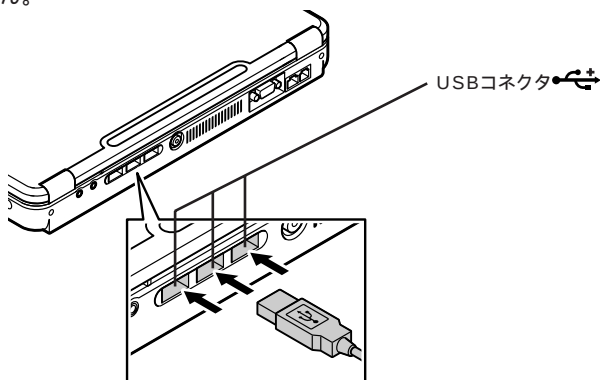
接続の前に

- ・ 機器によってはドライバやアプリケーションの設定が必要になるものもあります。取り付ける機器のマニュアルをご覧ください、必要な設定を行ってください。
- ・ USB2.0対応機器を使用するときは、USBハブ、USBケーブルもUSB 2.0に対応したものをお使いください。

USB対応機器の取り付け方と取り外し方

USB対応機器を取り付ける

- 1 USB対応機器のプラグを向きに注意して、パソコンのUSBコネクタ() に差し込む
プラグの  が上を向くように差し込みます。どのUSBコネクタに差し込んでいてもかまいません。



- 2 USB対応機器が正しく認識されたかを確認する
確認方法については、USB対応機器のマニュアルをご覧ください。



USBハブを使用する場合は、USBハブをパソコンに先に取り付けてから、USB対応機器のプラグをUSBハブのコネクタに差し込んでください。

USB対応機器を使用するときの注意

- USBコネクタの抜き差しは3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- USBデバイスが正常に認識されていないときは、一度USBコネクタからプラグを抜いて、もう一度差し込んでください。
- 省電力状態のときや省電力状態に移行中、復帰中はUSBコネクタの抜き差しをしないでください。

USB対応機器を取り外す

画面右下の通知領域に  が表示されている場合は、「周辺機器を使用するときのポイント」の「周辺機器の取り付け／取り外しのポイント」(p.55) をご覧になり、正しい手順で取り外してください。  が表示されていない場合は、そのまま取り外せます。

携帯電話リンクケーブル

添付の携帯電話リンクケーブルと添付のアプリケーション「携帯マスター9 for NEC」を使って、携帯電話のメモリダイヤル等のデータ管理をパソコンで行うことができます。



参照

「携帯マスター9 for NEC」について→「はそガイド」アプリケーションの紹介と説明」50
音別目次」または「スタート」すべてのプログラム」「ケータイ・マスター9 for NEC」「ケータイ・マスター9 マニュアル」

携帯電話と接続する



チェック

- ・ 添付の携帯電話リンクケーブル(PC-VP-WK11)はNTTドコモ、J-PHONE、TU-KA用です。
- ・ auの携帯電話に接続する場合は、別売の携帯電話リンクケーブル(PC-VP-WK12)が必要です。

- 1 接続する携帯電話の電源を切る
- 2 添付の携帯電話接続ケーブルをパソコンのUSBコネクタに接続する
- 3 携帯電話の外部接続端子に携帯電話接続ケーブルをしっかりと接続する
接続しにくい場合は無理に差し込まず、ケーブルの表裏を逆にするなど、形状、向きを確認してください。
携帯電話の外部接続端子については、携帯電話に添付のマニュアルをご覧ください。
- 4 携帯電話の電源を入れる

データ管理については『快適パソコン生活Book』をご覧ください。



チェック

携帯電話のバッテリー残量が少ない状態で接続や操作を行うと、故障やトラブルの原因となります。携帯電話のバッテリー残量を確認のうえ、接続や操作を行ってください。

IEEE1394コネクタ

IEEE1394コネクタについて

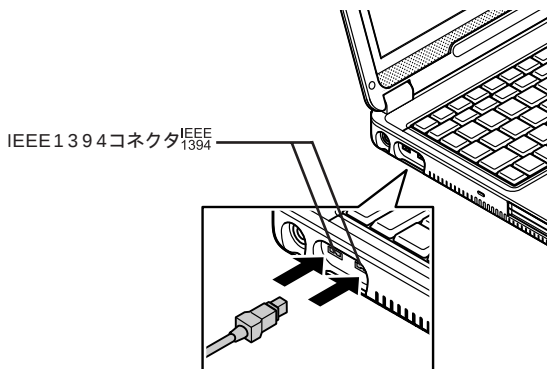
このパソコンにはIEEE1394コネクタが搭載されています。
IEEE1394に対応したデジタルビデオカメラや外付け用ハードディスクなどの周辺機器を取り付けることができます。

IEEE1394対応機器の取り付け方と取り外し方

IEEE1394対応機器を取り付ける

このパソコンとIEEE1394対応機器を接続するには、別売のIEEE1394ケーブルの4ピン用が必要です。

- 1 IEEE1394ケーブルのプラグを、向きに注意してパソコンのIEEE1394コネクタ(IEEE 1394)に接続する



- 2 IEEE1394ケーブルのもう一方のプラグを、取り付ける機器のIEEE1394コネクタに接続する



メモ

機器によってはIEEE1394コネクタをDV端子と呼ぶこともあります。

■ デジタルビデオカメラから画像を取り込む、編集する

IEEE1394コネクタを使ってデジタルビデオカメラなどのデジタルビデオ機器を取り付けると、パソコンへの映像の取り込みや取り込んだ映像の編集、デジタルビデオ機器への出力ができます。



チェック

お客様が録画、録音したものは個人で楽しむ場合を除き、著作権法上、著作権者に無断で使用できません。



参照

- ・ 映像の取り込み、編集、デジタルビデオ機器への出力 → VideoStudioのオンラインヘルプ、または「 ばそガイド」 「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」 「VideoStudio」
- ・ 映像の再生 → 「ばそガイド」 「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」 「WinDVD 4」 または「WinDVD 4」のヘルプ

■ パソコン同士を接続する

IEEE1394ケーブルでパソコン同士を接続すると、パソコン間でプリンタやファイルの共有や、データの移動ができるようになります。

接続にはホームネットワークの設定が必要になります。ホームネットワークの設定は、「スタート」 「コントロールパネル」 「ネットワークとインターネット接続」 「ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する」をクリックして、表示された「ネットワーク セットアップ ウィザード」で行ってください。

IEEE1394対応機器を取り外す

IEEE1394対応機器の取り外しは、「周辺機器を使用するときのポイント」の「周辺機器の取り付け / 取り外しのポイント」(p.55)をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

PCカードスロット

このパソコンではPC Card Standardに準拠したPCカードを使うことができます。

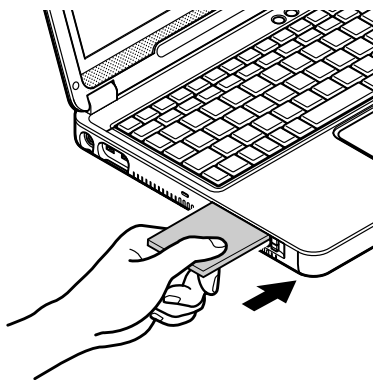
PCカードのセットのしかたと取り出し方

PCカードをセットする / 取り出すときの注意

- ・ PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。
- ・ アプリケーション使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

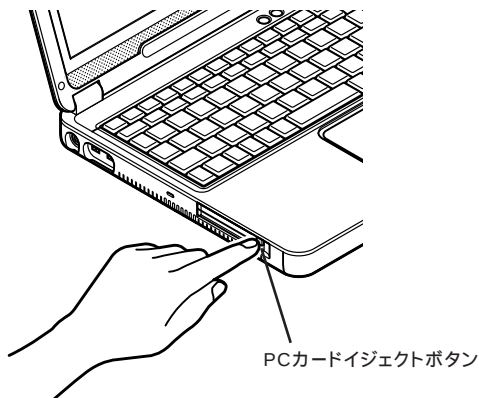
PCカードをセットする

PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、PCカードスロットにまっすぐ差し込んでください。



PCカードを取り出す

- 1 「周辺機器の取り付け／取り外しのポイント」(p.55)をご覧ください、周辺機器を取り外す準備を行う
- 2 PCカードイジェクトボタンを押す
イジェクトボタンが手前に飛び出します。



- 3 もう一度、イジェクトボタンをカチッと音がするまで押す
PCカードが少し飛び出します。
- 4 PCカードをまっすぐ引き抜く

PCカードを使用するときの注意

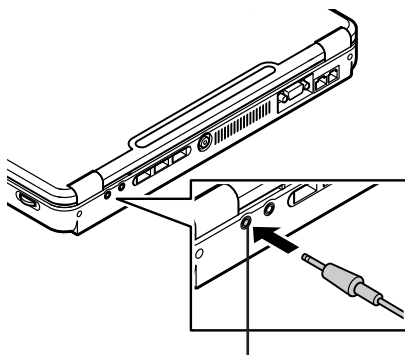
- ・ PCカードは精密にできています。PCカードやPCカードスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。
 - 高温多湿あるいは低温の場所に放置しない
 - 濡らさない
 - 重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしない
 - ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えない
 - PCカードの端子部分に金属などを差し込まない
- ・ PC Card Standardに準拠していないPCカードは使えません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。
- ・ CardBus対応PCカードとATAカードなどの通常のPCカード(PCMCIA2.1/ JEIDA4.2)を同時に使用しているときに、Windowsの動作がおかしくなる場合があります。その場合は、カードをセットするスロットを入れ替えてください。

サウンド入出力端子

ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子

ヘッドフォンやオーディオ機器を接続する

このパソコンには、ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子( / )が用意されています。ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子には、市販のヘッドフォンやオーディオ機器を接続することができます。



ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ
(S/PDIF)出力端子  / 

チェック

- ・ このパソコンのヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子には、ステレオミニプラグまたは光ミニプラグが接続できます。それ以外の端子の場合は変換プラグ等が必要になります。
- ・ ヘッドフォンやオーディオ機器を取り付ける場合は、このパソコンと機器の音量を最小にして、取り付け後に音量を調整してください。

DolbyHeadphone機能を使う

このパソコンには、DolbyHeadphone機能が搭載されています。ヘッドホン / オーディオ出力端子にヘッドフォンを接続すると、DVD-Videoディスクを臨場感のあるサウンドで楽しめます。

Dolby、ドルビー、Pro LogicおよびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

非公開機密著作物。著作権1992-1999年、ドルビーラボラトリーズ。不許複製



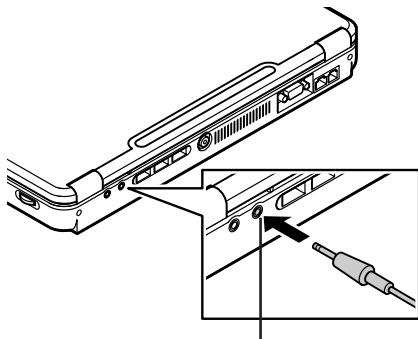
参照

DolbyHeadphone機能の使い方 → 「WinDVD 4」のヘルプ

外部マイクロフォン端子

マイクロフォンを接続する

このパソコンには、外部マイクロフォン端子(🎧)が用意されています。外部マイクロフォン端子には市販のミニプラグ付きマイクロフォンを接続できます。



外部マイクロフォン端子🎧

ノイズ除去機能など、サウンド機能の設定については、🖱️「ばそガイド」『パソコンの設定』「サウンドの設定」をご覧ください。

音量を調節する

マイクロフォンからの入力音量は、Windowsの「ボリュームコントロール」で調整します。



参照

ボリュームコントロールの使い方 → 🖱️「ばそガイド」『パソコンの設定』「サウンドの設定」『サウンドの設定』

外部映像出力端子

このパソコンと市販のディスプレイやテレビを接続して、大きな画面に表示させて使ったり、DVD-Videoを大画面で楽しむときなどに、この端子を使います。

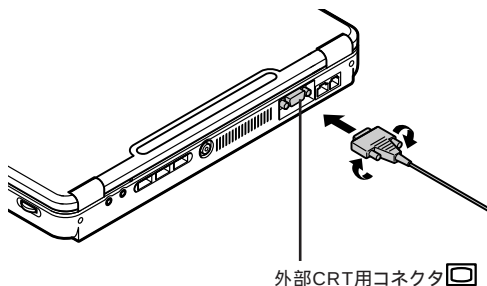
外部CRT用コネクタ

外部CRT用コネクタ()には、別売の外部ディスプレイやプロジェクタなどを接続できます。

より大きな画面に表示させてパソコンを使ったり、プレゼンテーションなどに活用することができます。

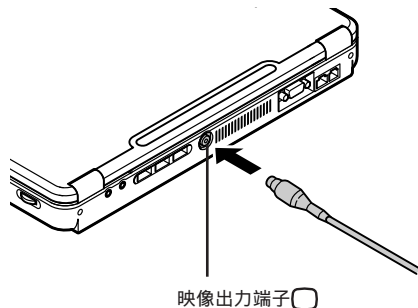
外部CRT用コネクタに接続する

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 ディスプレイ用ケーブルで、外部CRT用コネクタ()と外部ディスプレイやプロジェクタを接続する
詳しい接続については、外部ディスプレイやプロジェクタのマニュアルをご覧ください。



ビデオ入力端子付きのテレビと接続する

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 市販のビデオケーブルで、映像出力端子(○)とテレビのビデオ入力端子を接続する



表示するディスプレイを切り替える

外部ディスプレイやテレビなどが接続されている場合は、次の方法で画面を表示するディスプレイを切り替えることができます。

■ キーボードで切り替える

【Fn】を押したまま【F3】を押すごとに、「液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示」→「テレビ」→「液晶ディスプレイ」→「外部ディスプレイ」の順で表示するディスプレイが切り替わります。



チェック

複数のディスプレイに表示しているときにこの操作を行うと、設定が解除されます。

■ コントロールパネルで切り替える

コントロールパネルで画面の出力先を切り替えることができます。



参照

画面の出力先の切り替え →  『パソコンガイド』『パソコンの設定』『画面の設定』『ディスプレイの設定』

複数のディスプレイに同時表示する

同じ画面を2つのディスプレイに表示する

パソコンに接続した外部ディスプレイと、パソコンの液晶ディスプレイの両方に同じ画面を表示することができます。



参照

同じ画面を2つのディスプレイに表示する →  「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「画面の設定」 「ディスプレイの設定」

デュアルディスプレイ機能

パソコンに接続した外部ディスプレイと、パソコンの液晶ディスプレイの2つのディスプレイを使って、1つの大きな画面を表示することができる機能です。

外部ディスプレイと、パソコンの液晶ディスプレイを連続した1つの画面として使えるので、表示できる範囲が大きくなります。



参照

デュアルディスプレイ機能を使う →  「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「画面の設定」 「ディスプレイの設定」

メモリスロット

メモリを増やすことで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができますようになります。

このパソコンでメモリを増やすときには、別売の増設RAMボードをメモリスロットに取り付けます。

このパソコンで使える増設RAMボード

このパソコンでは、次の増設RAMボードが使用できます。

型名	メモリ容量
PK-MM133SD256	256Mバイト
PK-MM133SD512	512Mバイト

増設RAMボードを取り扱うときの注意

- ・ 増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- ・ 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

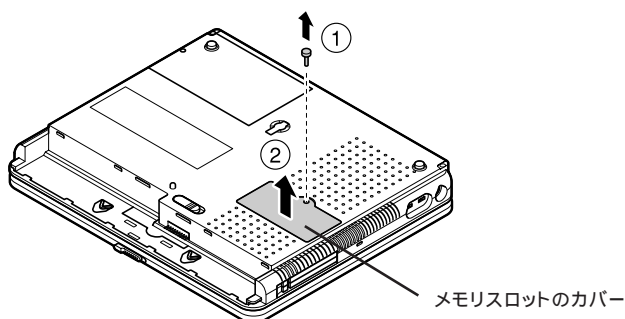
増設RAMボードの取り付け方と取り外し方

チェック

ベースカバーを取り付けている場合は、ベースカバーを取り外してください。ベースカバーの取り付け / 取り外しについては『はじめにお読みください』をご覧ください。

増設RAMボードを取り付ける

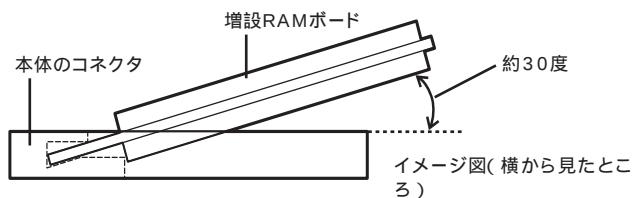
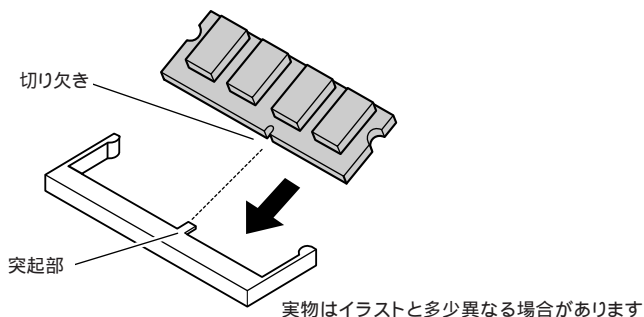
- 1 パソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す
- 4 バッテリーパックを取り外す(p.26)
- 5 図のネジをプラスドライバーで取り外し、メモリスロットのカバーを取り外す



- 6 増設RAMボードの切り欠き部分とコネクタの突起部を合わせ、コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する
増設RAMボードが奥まで挿入できている場合は、端子部分(金色)のほとんどが、本体のコネクタに差し込まれた状態になります。

チェック

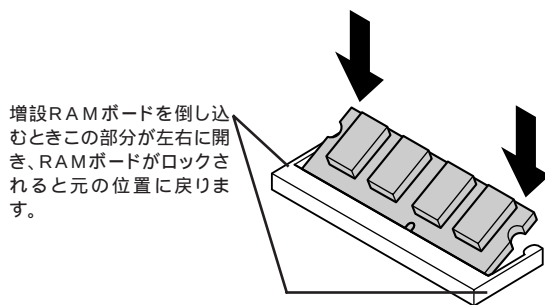
増設RAMボードの表と裏が間違っている場合、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、挿入することができません。間違った向きのままで無理に取り付けようとすると、パソコンのコネクタ部や増設RAMボードが破損する原因となりますので注意してください。



チェック

挿入するときに、コネクタが固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

7 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをコネクタに強く倒し込む

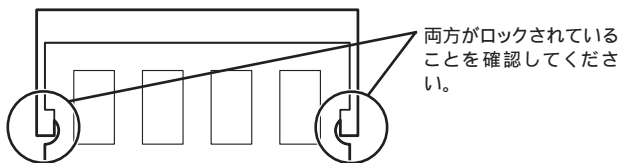


8 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認する

正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金色の部分が少し(1mm程度)見える状態です。

チェック

確実にロックされていないと、本体のコネクタ部や増設RAMボードの故障の原因となります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。



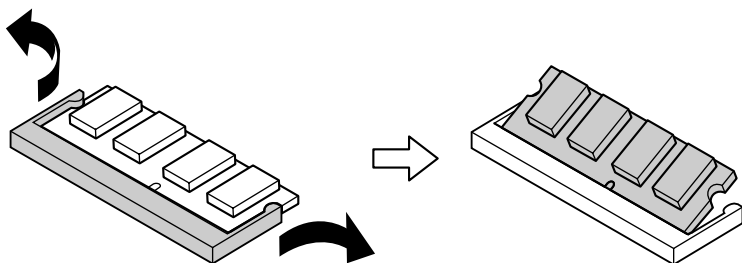
9 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

10 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

メモリ増設後は、 「ばそガイド」-「パソコンの情報」でメモリ容量を確認してください。

増設RAMボードを取り外す

- 1** 「増設RAMボードを取り付ける (p.69) の手順1～5を行い、メモリスロットのカバーを取り外す
- 2** メモリスロットのコネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のように起き上がります。



- 3** 起き上がった増設RAMボードをそのまま斜めに引き抜く
- 4** メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける
- 5** バッテリパックとACアダプタを取り付ける

P A R T

3

付 録

パソコンやデータを守る

このパソコンの不正使用、パソコン本体とデータの盗難、またはパソコンの起動に必要なファイルへのウイルス感染の防止方法を説明します。

パスワード

パソコンにパスワードを設定することで、BIOSセットアップユーティリティを起動するときにパスワードの入力が必要になり、入力したパスワードによって設定可能な項目が制限されます。

また、パソコンの電源を入れるときにパスワードの入力が必要な設定にすると、パソコンが不正に使用されることを防げます。



チェック

- ・ 設定したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えて、人目に付かないところに保管しておくことをおすすめします。
- ・ ご購入元、NEC 121コンタクトセンターなどにパソコンの修理を依頼される際には、パスワード解除しておいてください。

■ パスワードの種類

● スーパーバイザパスワード

管理者用のパスワードです。スーパーバイザパスワードを入力してBIOSセットアップユーティリティを起動すると、すべての項目が設定可能になります。

● ユーザパスワード

使用者用のパスワードです。ユーザパスワードを設定するには、スーパーバイザパスワードが設定されている必要があります。ユーザパスワードを入力してBIOSセットアップユーティリティを起動した場合、設定できる項目が制限されます。

■ パスワードの設定をする

パスワードの設定は、BIOSセットアップユーティリティで行います。

設定方法については、「ばそガイド」・「パソコンの設定」・「ハードウェア情報」・「BIOS設定」をご覧ください。

パスワードを設定しているときの電源の入れ方

パソコン起動時にパスワードの入力が必要な設定にしているときは、次の手順で電源を入れてください。

1 パソコンの電源を入れる

次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

パスワードを入力してください。[_]

2 設定したパスワードを入力し、【Enter】を押す

正しいパスワードを入力すると、Windowsが起動します。

チェック

- ・ 間違ったパスワードを入力すると警告が表示されます。3回間違ったパスワードを入力すると、パスワードの入力ができなくなります。その場合は、一度パソコンの電源を切って、手順1からやりなおしてください。
- ・ スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定している場合は、どちらのパスワードを入力してもかまいません。

盗難防止用ロック

このパソコンの盗難防止用ロック( p.3)に別売のセキュリティケーブル(PK-SC/CA02)を取り付け、盗難を防ぐことができます。詳しくは、セキュリティケーブルのマニュアルをご覧ください。

チェック

当社製セキュリティケーブル(PK-SC/CA01)はこのパソコンでは使用できません。

ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止

パソコンの電源を入れたときに、最初に読み込むハードディスクの部分をハードディスク起動セクタといいます。

ハードディスク起動セクタへの書き込みを禁止することで、パソコンの起動に必要なファイルをウイルスの感染から防ぐことができます。

ハードディスク起動セクタへの書き込み禁止の設定については、「パソコンガイド」
「パソコンの設定」
「ハードウェア情報」
「BIOS設定」をご覧ください。

メモ

ウイルス対策については、「パソコンガイド」
「ウイルスとトラブル予防」もご覧ください。

BIOSセットアップユーティリティ

BIOSセットアップユーティリティの使い方

BIOSセットアップユーティリティの起動

- 1 パソコンの電源を入れ、「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す
BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。



チェック

BIOSセットアップユーティリティが表示されないときは、電源を入れなおして【F2】を押す間隔を変えてください。

BIOSセットアップユーティリティの基本操作

操作はキーボードで行います。

- 設定を変更する
 - ・【←】【→】でメニューを選び、【↑】【↓】で設定項目を選びます。
 - ・設定内容の値は【F5】【F6】で変更します。
- 設定の変更を保存する

「終了」メニューの「変更を保存する」を選びます。変更した設定内容が保存されます。
- 設定の変更を取り消す

「終了」メニューの「変更を取り消す」を選びます。各設定項目の設定内容を最後に保存した値に戻します。

購入時の値に戻す



メモ

購入時の値に戻しても、パスワードの設定は変更されません。

- 1 キーボードの【F9】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
- 3 キーボードの【F10】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
購入時の値が設定され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

BIOSセットアップユーティリティの終了

■ 変更を保存して終了する

- 1 【F10】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
終了を中止したいときは【Esc】を押してください。
- 2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
設定内容が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

■ 変更を保存せずに終了する

「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」を選びます。設定内容を最後に保存した値に戻して、BIOSセットアップユーティリティを終了します。

本体機能一覧

LN500

型名	LN500/6D	
型番	PC-LN5006D	
CPU	モバイルインテル® Celeron® プロセッサ1.26GHz	
キャッシュメモリ	1次	32KB(CPU内蔵)
	2次	256KB(CPU内蔵)
バスクロック	システムバス	133MHz
	メモリバス	133MHz
チップセット	VIA社製 Apollo Pro 133T/ VIA社製VT82C686B	
メモリ (メインRAM) ¹	標準容量	256MB(SDRAM/SO-DIMM、PC133対応)
	スロット数	1スロット[空きスロット1]
	最大容量	768MB ²
表示機能	内蔵ディスプレイ	12.1型TFTカラー液晶(XGA(最大1,024×768ドット表示))
	ビデオRAM	8MB
	グラフィック アクセラレータ	ATI社製MOBILITY™ RADEON™ [デュアルディスプレイ 表示機能 ³ 、スムージング機能 ⁴ をサポート、AGP対応]
	解像度・表示色 ^{5 6}	800×600ドット 最大1,677万色 ⁸ (最大1,677万色)
	(別売の外付け)	1,024×768ドット 最大1,677万色 ⁸ (最大1,677万色)
	ディスプレイ (接続時 ⁷)	1,280×1,024ドット 最大1,677万色 ⁸ (最大1,677万色) 1,600×1,200ドット 最大1,677万色 ⁸ (最大1,677万色)
メール着信表示機能	メール着信ランプ搭載	
サウンド機能	音源 / サラウンド機能	PCM録音再生機能(ステレオ/モノラル、量子化8ビット/16 ビット、サンプリングレート8-48KHz、全二重化対応)モノ ラルマイクロフォン内蔵、MIDI音源機能(ソフトウェアMIDI [XG、XG-Lite、GM、GS演奏モード対応、DLS2対応 ⁹])、マイ クノイズ除去機能 ¹⁰ 、3Dボジョナルサウンド
	スピーカ / スピーカ定格出力	内蔵ステレオスピーカ/0.5W + 0.5W
	サウンドチップ	ADI社製 AD1981A搭載
通信機能	FAXモデム ¹¹	データ通信:最大56Kbps ¹² (V.90対応)/ FAX通信:最大14.4Kbps(V.17)
	LAN	100BASE-TX/10BASE-T対応
入力装置	キーボード	本体一体型(キーピッチ19mm ¹³ 、キーストローク 2.5mm)JIS標準配列(85キー)右コントロールキー付き
	マウス	光センサーUSBミニマウス(白、スクロール機能付き)
	マイク	モノラルマイク内蔵
	ワンタッチスタートボタン	ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤーボタン搭載
	ポインティングデバイス	スクロール機能付NXパッド標準装備

型名	LN500/6D	
型番	PC-LN5006D	
フロッピーディスクドライブ	- 【別売、専用オプション(型番:PC-VP-WU14) ¹⁵⁾ 】	
ハードディスクドライブ ¹⁶⁾	約40GB ¹⁷⁾ (UltraATA-100)	
CD/DVDドライブ ^{18) 19) 20) 21) 22)}	マルチブレードドライブ(CD-R/RW with DVD-ROM)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き) ²³⁾	
	速度	CD読み出し:最大24倍速、CD-R書き込み:最大24倍速、CD-RW書換え:最大10倍速 ²⁴⁾ 、DVD読み出し:最大8倍速
スロット	PCカード	Type Ⅱ×2スロット(Type Ⅰ×1スロットとしても使用可能)、PC Card Standard準拠、CardBus対応
インターフェイス	USB	コネクタ4ピン×3(USB 2.0×3 ^{25) 26)}
	IEEE1394(DV) ²⁷⁾	4ピン×2
	ディスプレイ(アナログ)	ミニD-sub15ピン×1
	FAXモデム	RJ11モジュラコネクタ×1
	LAN	RJ45コネクタ×1
サウンド関連インターフェイス	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力	光ミニジャック×1 ²⁸⁾ (ヘッドフォン出力/ライン出力と共用)
	ライン出力	ヘッドフォン出力と共用(ライン出力レベル 1Vrms)
	マイク入力	モノラルミニジャック×1(マイク入力インピーダンス 10k Ω 入力レベル5mVrms、バイアス電圧2.5V)
	ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1(ヘッドフォン出力インピーダンス 16 Ω -100 Ω 「推奨32 Ω 」出力電力 5mW/32 Ω)
映像関連インターフェイス	ビデオ出力(TV-OUT)	コンボジット×1
バッテリー駆動時間 ^{29) 30)}	約2.5時間	
バッテリー充電時間(電源ON時/ OFF時) ²⁹⁾	約2.9時間/ 約2.9時間	
電源 ¹⁴⁾	リチウムイオンバッテリーまたはAC100V~240V $\pm$ 10%、50/60Hz(ACアダプタ経由) ³¹⁾	
消費電力	標準	約18W
	最大	約60W
エネルギー消費効率(ACアダプタを含む) ³²⁾	区区分0.00042	
電波障害対策	VCCI ClassB	
温湿度条件	5~35℃、20~80%RH(ただし、結露しないこと)	
外形寸法	本体(突起部除く)	285(W)×240(D)×34.3(H)mm
	バッテリー	約285(W)×45.5(D)×20.9(H)mm
	ACアダプタ	約114.5(W)×49.5(D)×29.0(H)mm
質量	本体	約2.4kg ³³⁾
	マウス	約60g
	バッテリー	約360g
	ACアダプタ	約280g

型名	LN500/6D
型番	PC-LN5006D
インストールOS	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack1 ³⁴
サポートOS	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack1 ³⁵
主な添付品	ACアダプタ(白)、マニュアル、回線ケーブル、DVDステーション、光センサーUSBミニマウス(白)、携帯電話リンクケーブル(DoCoMo/J-PHONE/TU-KA用)(USB接続) ³⁶ 、スタンド、ベースカバー
主なインストールソフト	Microsoft® Office XP Personal

- 1: 使用可能な増設メモリは、PK-MM133SD256(256MB)、PK-MM133SD512(512MB)を推奨します。
- 2: 最大メモリ容量にする場合、別売の増設RAMボード(512MB)を1枚実装する必要があります。
- 3: 本体の液晶ディスプレイと、外付けディスプレイで、異なるデスクトップ画面を表示する機能です。
- 4: 文字や画像を滑らかに拡大する機能です。
- 5: 本体液晶ディスプレイより大きい解像度を選択した場合は、バーチャルスクリーン機能により実現します。
- 6: 本体液晶ディスプレイより小さい解像度を選択した場合、拡大表示機能により液晶画面全体に表示します。
- 7: 本機の持つ解像度及び色数の能力であり、接続するディスプレイ対応解像度、リフレッシュレートによっては表示できない場合があります。本体の液晶ディスプレイと外付けディスプレイの同時表示可能です。ただし、拡大表示機能を使用しない状態で、800×600ドットの解像度では、外付けディスプレイ全体には表示されません。
- 8: 1,677万色表示は、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現します。
- 9: DLSは「Downloadable Sounds」の略です。DLSを使うと、カスタム・サウンド・セットをSoundMAXシンセサイザにロードできます。
- 10: ノイズ除去機能によって、音声入力信号から周辺雑音を取り除かれ、クリーンでクリアな信号がアプリケーションに渡されます。
- 11: 回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。また、内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- 12: 56Kbpsはデータ受信時の理論上の最大速度です。データ送信時は最大33.6Kbpsになります。
- 13: キーボードのキーの横方向の間隔。キーの中心から隣のキーの中心までの長さ(一部キーピッチが短くなっている部分があります)。
- 14: PC本体のバッテリーなどに使用する各種電池は消耗品です。
- 15: 2モード(720KB/1.44MB)に対応しています(ただし720KBのフォーマットは不可です)。
- 16: 1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
- 17: Windows®のシステムからは、容量がCDドライブ:約27.9GB、DDドライブ:約3.73GB、残り:再セットアップ用として認識されます。
- 18: 12cm CD、DVD以外は使用出来ません。ハート型等の特殊形状をしたCDは故障の原因となりますので使用しないでください。
- 19: コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDでは、再生や音楽CDの作成が出来ない場合があります。
- 20: メディアの種類、フォーマット形式によって読み取り性能が出ない場合があります。また、記録状態が悪い場合など、読み取りできない場合があります。
- 21: 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによるMPEG2再生方式です。NTSCのみ対応しております。Regionコード「2」「ALL」以外のDVD-Videoの再生は行えません。再生するDVDディスクおよびビデオCDの種類によってはコマ落ちする場合があります。リニアPCM(96KHz/24bit)で記録されている20KHz以上の音声信号は再生できません。DVDレコーダで記録されたDVDで、書き込み形式により再生できないものがあります。そのような場合はDVDレコーダの取扱説明書などをご覧ください。
- 22: 設定した書き込み・書き換え速度を実現する為には、書き込み・書き換え速度に応じたメディアが必要になります。
- 23: バッファアンダーラン防止機能付。内周と外周の書き込み速度を切り替え、安定した高速書き込みを実現します。また、記録メディア毎に最適な書き込み速度を自動制御する、ディスクエラー低減機能もサポート。なお、ライティングソフトウェアが表示する書き込み予想時間と異なる場合があります。

- 24: Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
- 25: 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- 26: USB 1.1対応の周辺機器も利用できます。USB 2.0で動作するにはUSB 2.0対応の周辺機器が必要です。動作確認済み機種についてはインターネット(<http://121ware.com/personal/> → 各シリーズページ → 「接続情報」)をご覧ください。
- 27: 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット(<http://121ware.com/personal/> → 各シリーズページ → 「接続情報」)をご覧ください。
- 28: サンプリングレートは48KHzのみ。音楽CDのMDへの録音が可能です。
- 29: バッテリ駆動時間や充電時間は、ご利用状況によって記載時間と異なる場合があります。
- 30: JEITA/バッテリー動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件は、インターネット(<http://121ware.com/personal/> → 各シリーズページ → 「仕様一覧」)でご案内しています。
- 31: 標準添付されている電源コードはAC100V用(日本仕様)です。
- 32: エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
- 33: ベースカバーの質量は含まれておりません。
- 34: 添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。Microsoft® Windows® XP Home Editionでは、ネットワークでドメインに参加する機能はありません。
- 35: 別売のWindows® XP Home Edition/パッケージやWindows® XP Professional/パッケージをインストールおよび利用することはできません。
- 36: メモリダイヤル等のデータ交換に対応しています。使用可能な携帯電話については、インターネット(<http://www.junglejapan.com/nec/>)をご覧ください。FOMA接続およびデータ通信の機能はありません。市販の携帯電話/PHS用のアプリケーション(着信音編集やメモリ編集等)には対応していません。

通信機能一覧

内蔵FAXモデム

● 機能概要

項 目	規 格
CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

● FAX機能

項 目	規 格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM:14400/12000
	QAM:9600/7200bps
	DPSK:4800/2400bps
	FSK:300bps
送信レベル	-11 ~ -15dBm / -15dBm
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

: 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

● データモデム機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ¹
	受信 56000/54666/52000/50666/49333/48000/46666/45333/ 44000/42666/41333/40000/38666/37333/36000/34666/33333/ 32000/30667/29333/28000bps ¹
通信規格	ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	PCM:56000/54667/52000/50667/49333/46667/45333/ 42666/41333/40000/38667/37333/36000/34667/ 33333/32000/30667/29333/28000
	TCM:48000/33600/31200/28800/26400/24000/21600/ 19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps
	QAM:9600/4800/2400/1200bps
	DPSK:1200bps
	FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM)
	MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis
	MNP class5
送信レベル	-11 ~ -15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 ²

1: 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2: ATコマンドについては、「ばそガイド」²「パソコンの設定」²「ハードウェア情報」²「ATコマンド」²をご覧ください。

● NCU機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS)
	トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠
	EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

内蔵LAN

● 規格概要

項 目	規 格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時: 100Mbps
	10BASE-T使用時: 10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時: UTPカテゴリ5
	10BASE-T使用時: UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台 / ネットワーク
ステーション間距離 ネットワーク経路長	100BASE-TX: 最大約200m / ステーション間
	10BASE-T : 最大約500m / ステーション間 最大100m / セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式

:リピータの台数など、条件によって異なります。

2.4GHzワイヤレスLAN

2.4GHzワイヤレスLANは2.4GHzワイヤレスLANモデルのみの機能です。

項 目	規 格
準拠規格	ARIB STD-T66(省電力データ通信システム規格) IEEE802.11b(2.4GHzワイヤレスLAN標準プロトコル)
通信速度	11M/5.5M/2M/1M(bps)(自動切替) ¹
変調方式	DS-SS方式
使用無線チャンネル	1 ~ 11ch
暗号化機能	64bit、128bit ²
RF周波数域	2.4GHz帯域(2.4 ~ 2.4835GHz)

1: IEEE802.11b規格による速度(理論値)であり、実効速度は異なります。

実効速度は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件、アプリケーションやOSなどの使用条件によって異なります。

2: 設定可能な鍵長は、それぞれ40bit、104bitになります。

索 引

索引

英字

2.4GHzワイヤレスLAN	40, 86
ADSL	36
BIOSセットアップユーティリティ	77
CATV	36
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	v, 2, 11
CD/DVDアクセスランプ	2
CD/DVDドライブ	v, 11
CD/DVDプレーヤボタン	2, 10
CDの再生	14
DCコネクタ	3
DolbyHeadphone	64
DVD-Videoディスクの再生	14
【Fn】エフエヌキー)	8
IEEE1394コネクタ	3, 59
LAN	36, 85
LANコネクタ	3, 37
MobileOptimizer	46
NXパッド	2, 4
PCカード	61
PCカードイジェクトボタン	3, 62
PCカードスロット	3, 61
USB	56
USBコネクタ	3, 56

あ行

アクセスランプ(CD/DVDドライブ)	12
アクセスランプ(本体)	2
イジェクトボタン(CD/DVDドライブ)	12
イジェクトボタン(フロッピーディスク)	17
【インターネット】ボタン	9
映像出力端子	3, 66
液晶ディスプレイ	2, 19
音楽CDからのデジタル出力設定	48
音量調節つまみ	2, 48

か行

解像度	19
-----------	----

外部CRT用コネクタ	3, 65
外部ディスプレイ	65
外部マイクロフォン端子	3, 64
キーボード	2, 6
輝度	19
キャップスロックキーランプ	2
休止状態	29, 32
休止状態からの復帰	32
クリックボタン	4
携帯電話リンクケーブル	58

さ行

サウンド機能	48
サスペンド	29
周辺機器	52
周辺機器の取り外し	55
省電力機能	29
省電力状態	29
スーパバイザパスワード	74
スクロールロックキーランプ	2
スクロールボタン	4
スタンバイ状態	29, 31
スタンバイ状態からの復帰	32
スピーカ	2
スリープ状態	29
増設RAMボード	68

た行

ディスプレイストレッチ機能	19
ディスプレイの切り替え	66
ディスプレイの同時表示	67
デバイスドライバ	54
デバイス マネージャ	vi
デュアルディスプレイ機能	67
テレビ	66
電源回復(スタンバイ状態からの復帰)	39
電源スイッチ	2
電源ランプ	2, 3, 21, 30
電話回線用モジュラーコネクタ	3, 45
盗難防止用ロック	3, 75

ドライバ 54

な行

ニューメリックロックキーランプ 2

は行

バーチャルスクリーン 20

ハードディスク起動セクタ
へのウイルス感染防止 76

ハイバネーション 29

パスワード 74

バッテリーアンロック 3, 27

バッテリー残量の確認 21

バッテリー充電ランプ 2, 3, 24

バッテリーの充電 23

バッテリーパック 3, 26

バッテリーパックの交換 26

バッテリーリフレッシュ 24

バッド 4

ビープ音のオン / オフ 8

表示色 19

復帰 32

プラグ&プレイ機能 54

ブロードバンド 36

プロジェクト 65

フロッピーディスク

アクセスランプ 17

フロッピーディスクドライブ 16

ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタル

オーディオ (S/PDIF) 出力端子 3, 63

ホットキー機能 8

ボリュームコントロール 48, 64

ま行

メール着信ランプ 2, 3

【メール】ボタン 9

メモリ 68

メモリスロット 3, 68

メモリ容量の確認 71

モデム 45, 83

や行

ユーザパスワード 74

ら行

レジューム 29

わ行

ワイヤレススイッチ 2, 43

ワイヤレスランプ 2, 42

ワンタッチスタートボタン 2, 9

MEMO

MEMO

MEMO

『パソコン機能ガイド』と合わせて使う

電子マニュアル『ばそガイド』

「ばそガイド」はパソコンの画面で見るマニュアル。パソコンに関する設定や、アプリケーションの使い方など、役立つ情報がつまっています。このマニュアルと合わせて使って、上手に情報を手に入れましょう。デスクトップにある  をダブルクリックして表示できます。

このパソコンの型名や製造番号、メモリの容量など、ハードウェアに関する詳しい情報を表示します。
周辺機器を買うときは、画面を印刷して持っていても役に立ちます。

調べたいキーワードを入力して、「検索」をクリックします。

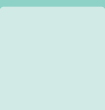
このパソコンに添付されている各アプリケーションの紹介、使い方を説明しています。

ネットワークの設定、省電力の設定など、パソコンに関する設定について説明しています。BIOSの情報などもここで。



サポート窓口についてはこちら。

周辺機器を接続したけどうまく動かない、設定がうまくできない...
困ったときはここを参考に。



LaVie

このマニュアルは再生紙
(古紙率:表紙50%、本文100%)
を使用しています。

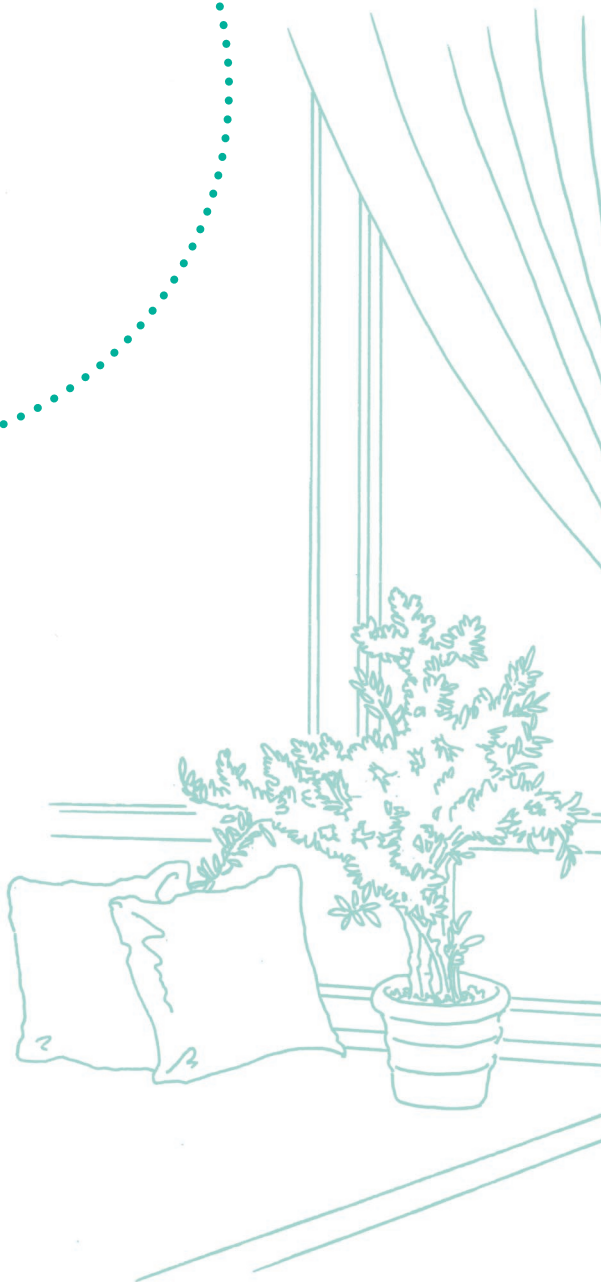
初版 2003年5月
NEC
P
853-810601-125-A
Printed in Japan

パソコン機能ガイド



Li-ion

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。



* 8 5 3 8 1 0 6 0 1 1 2 5 A *